心連心
Heart to Heart

心連心：中国高校生長期招へい事業

第9期 報告書

平成26(2014)年9月2日～平成27(2015)年7月18日

【中間研修　兵庫県・孫文記念館にて】

独立行政法人国際交流基金　日中交流センター

心連心：中国高校生長期招へい事業 第九期 報告書
平成26(2014)年9月2日～平成27(2015)年7月18日

目次

はじめに …… 3

事業紹介 …… 4

生徒名簿 …… 5

思い出のアルバム …… 6

第九期生に聞きました！ …… 14

好きなものランキング …… 18

帰国を前に －作文集－ …… 19

第九期生を受け入れて …… 51

あとがき …… 60

心連心：中国高校生長期招へい事業

第9期 報告書

はじめに

平成26年9月2日に来日した「心連心：中国高校生長期招へい事業」の第九期生31名は、平成27年7月18日、11か月の日本留学を終え、無事帰国いたしました。

全国25都道府県における留学期間中は、受入校、ホストファミリー、地域の皆様など、多くの方々に温かく見守っていただき、数々の貴重な体験をさせていただきました。ここに心よりお礼申し上げます。

第九期生もこれまでの高校生たちと同じように、それぞれの滞在地で得がたい経験をしてきたことが作文から読み取ることができます。来日時に立てた目標に向かって努力した生徒も多く見られますし、日本に来て日中の文化差異、考え方の違いに初めて気づき、新しい発見をした生徒も少なくありません。慣れない異文化生活での悩み、日本語という外国語でのコミュニケーションで感じたもどかしさ、戸惑いなど、さまざまな体験をする中で考えたことや感得したことは、これからの人生の中で生かされていくことでしょう。日本滞在中に得た親しい人たちとの絆を、これからも大切にしてほしいと願っています。

本事業は今期で9年目を迎え、第一期生から第九期生までのプログラム修了者は298名に達しました。平成27年春現在、修了者のうち約120名が就職や留学のために日本に滞在しており、各自の進路で奮闘しています。また、中国国内で就職や進学をした修了者も、日本での経験を生かして活躍しています。修了者は当センターが実施する「大学生交流事業」や「中国ふれあいの場事業」での交流活動でも日本人学生とともに積極的に活動を盛り立て、時に後輩のよきアドバイザーとして交流も継続しており、頼もしい限りです。

当センターといたしましては、引き続き日中青少年の相互理解と信頼関係の増進を目標にこれら事業を展開して参ります。第九期生の受入にご協力いただきました関係各位におかれましては、今後とも引き続き本事業に対するご支援とご協力をお願い申し上げます。

国際交流基金 日中交流センター
所長　阿南 惟茂

「心連心：中国高校生長期招へい事業」とは

「心連心：中国高校生長期招へい事業」は、未来志向の日中関係を築く礎として、より深い青少年交流を実現させるため、日中両政府間の合意に基づく事業としては初めての中国人高校生の長期招へい事業として、2006年度に開始されました。本事業では“心と心をつなぐ”をモットーに、「心連心」というプログラム名称を用いています。

中国政府の推薦と国際交流基金の選考を受け、本事業の第九期生として2014年9月2日より来日した中国人高校生31名は、日本各地に滞在し、様々な活動を通じてホストファミリーや日本の高校生たちとの絆を深めました。

本事業は、中国の高校生に日本滞在の機会を提供し、その生活を通して日本の社会と文化を知ってもらい、同時に日本の高校生たちにも同年代の中国の高校生と交流する機会を提供するものです。直に交流し、心と心を結び合うことで、日中両国の長期的な関係発展の基礎となる若い世代の信頼関係を築くことを目指しています。

実施概要

期間	2014年9月2日～2015年7月18日
実施体制	中国国内での招へい生選考……国際交流基金と中国教育部が共同で実施 日本国内における受入れ……受入校と国際交流基金が共同で実施
招へい生徒	全31名（女子22名、男子9名） 第九期は、北京市、天津市、河北省、山西省、遼寧省、黒龍江省、上海市、福建省、山東省、河南省、湖北省、湖南省、広東省、四川省、陝西省より選抜
国内受入地	北海道、岩手県、秋田県、山形県、宮城県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、長野県、福井県、静岡県、愛知県、三重県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、岡山県、広島県、佐賀県、大分県、鹿児島県、沖縄県
経費負担	学費や教科書代・副教材費、制服代など生徒が学校に支払うべき経費を上限100万円（寮の場合は150万円）の範囲内で国際交流基金が支弁
協賛	日本航空株式会社、株式会社資生堂、カシオ計算機株式会社

「心連心：中国高校生長期招へい事業」第九期生名簿

No.	氏名	氏名	性別	出身地	受入高校	都道府県
1	楊 明哲	YANG Mingzhe	男	遼寧省	立命館慶祥中学校・高等学校	北海道
2	周 寅培	ZHOU Yinpei	女	河北省	北海道札幌清田高等学校	北海道
3	王 志涵	WANG Zhihan	男	天津市	盛岡中央高等学校	岩手県
4	全 嘉楽	QUAN Jiale	女	上海市	秋田県立秋田北高等学校	秋田県
5	陳 思宇	CHEN Siyu	男	遼寧省	山形県立酒田東高等学校	山形県
6	鄒 欣然	ZOU Xinran	女	湖北省	仙台育英学園 秀光中等教育学校	宮城県
7	王 歩雲	WANG Buyun	女	遼寧省	埼玉県立和光国際高等学校	埼玉県
8	李 文馨	LI Wenxin	女	山東省	埼玉県立蕨高等学校	埼玉県
9	林 澤宇	LIN Zeyu	女	上海市	千葉市立稲毛高等学校	千葉県
10	趙 婉言	ZHAO Wanyan	女	遼寧省	東京学芸大学附属国際中等教育学校	東京都
11	劉 杏方	LIU Xingfang	女	四川省	横浜市立みなと総合高等学校	神奈川県
12	陳 美君	CHEN Meijun	女	湖北省	長野県長野西高等学校	長野県
13	陳 林嶠	CHEN Linjiao	男	広東省	敦賀気比高等学校	福井県
14	陳 家文	CHEN Jiawen	男	北京市	静岡学園高等学校	静岡県
15	盧 逸塵	LU Yichen	女	河北省	光ヶ丘女子高等学校	愛知県
16	劉 琳	LIU Lin	女	黒龍江省	桜丘高等学校	愛知県
17	陳 鋆	CHEN Yun	女	福建省	三重高等学校	三重県
18	李 彩維	LI Caiwei	女	遼寧省	立命館宇治中学校・高等学校	京都府
19	魏 傲雪	WEI Aoxue	女	遼寧省	大阪府立大手前高等学校	大阪府
20	劉 子煊	LIU Zixuan	女	遼寧省	大阪府立夕陽丘高等学校	大阪府
21	李 婧	LI Jing	女	福建省	兵庫県立宝塚高等学校	兵庫県
22	李 一凡	LI Yifan	女	広東省	奈良市立一条高等学校	奈良県
23	高 雪梅	GAO Xuemei	女	黒龍江省	和歌山県立那賀高等学校	和歌山県
24	邵 思成	SHAO Sicheng	男	陝西省	岡山県共生高等学校	岡山県
25	任 欣雨	REN Xinyu	女	四川省	広島市立舟入高等学校	広島県
26	劉 浩翔	LIU Haoxiang	男	河南省	佐賀龍谷学園 龍谷高等学校	佐賀県
27	王 俊朝	WANG Junzhao	男	広東省	岩田高等学校	大分県
28	賀 梓忻	HE Zixin	女	湖南省	神村学園高等部	鹿児島県
29	韓 博陽	HAN Boyang	男	山西省	神村学園高等部	鹿児島県
30	張 楚琚	ZHANG Chujun	女	山東省	鹿児島県立武岡台高等学校	鹿児島県
31	鄭 桐	ZHENG Tong	女	山東省	沖縄県立向陽高等学校	沖縄県

思い出のアルバム

第九期生の一年間

9月2日、第九期生、31名が成田空港に降り立ちました。
東京オリンピック記念青少年総合センターを拠点にしての5日間の来日研修では、留学の心得や日本の生活習慣、日本人の考え方などを学んだり、東京中野区のボランティアの方々と一緒に街を歩いたりと、実地研修も行いました。加えて科学技術館では見たり触ったりしながら日本の先端技術を体験。中国大使館教育処と外務省への表敬訪問も行いました。
多くの来賓をお迎えした来日歓迎レセプションでは、留学生を支える方々からたくさんの激励をいただき、31名はこれから始まるそれぞれの留学生活を思い描きながら、9月6日各地へと向かいました。
九期生たちの11ヶ月の成長の軌跡をご覧ください！

来日研修 in 東京 2014年9月2日−6日

日本に到着！

日本の習慣やルールを学びます

日本の街を歩いてみよう！

日本の街の驚きや発見を発表！

外務省・
中国大使館を
表敬訪問

「先生、
はじめまして！」

仲良し九期生！

これから一年頑張るぞ〜！

留学生活 私たちの日常

部活で大会に出場！

着物で おすまし♪

ホストママの料理が 大好き！

Good!

同期の仲間たちと離れ、それぞれの留学地でひとり、新たな生活をスタートさせた九期生たち。そこでは新しい学校の仲間たちやホストファミリーが温かく迎え入れてくれました。
日本語での授業や部活動、学園祭、電車や自転車での通学…日々、初めて体験することばかり。泣いたり笑ったり、31通りの『物語』が日本各地で繰り広げられています。

楽しい思い出が
たくさん

忘れられない
素敵なプレゼント…

生まれて初めて
チェロに挑戦！！

シンデレラ城！！

休日も友達と一緒♡

何気ない日常の
風景

中間研修 in 大阪・兵庫 2015年1月21日ー25日

久しぶりー！

食品サンプル作りを体験

美味しくできたよ！

みんな一緒に調理実習

1月は関西で4泊5日の中間研修を行いました。全国から集った仲間たちと半年ぶりの再会！ 半分が過ぎた留学生活のこと、これから帰国までの思いなど話は尽きることがありません。研修では留学生活前半を振り返り、それぞれの悩みや問題の解決策を話し合ったり、お互いの成長を確かめ合ったりしながら、後半の目標を立てました。
研修終了後、絆をいっそう強めた同期たちと別れを惜しみながら半年後の再会を約束し、またそれぞれの留学地へと戻っていきました。

後半の目標を発表！

久しぶりの再会で
話したいことがたくさん！

先輩も
来てくれました！

南京町で
懐かしの中華料理！

引き続き
頑張ろう！

帰国前研修 in 東京
2015年7月15日−18日

みんな、会いたかったよ〜!!

東京タワーに登りました!

早稲田大学
キャンパスツアー☆

留学生活の総括

学食でランチ!

修了証書授与

絶対に忘れない♡心連心の輪♡

涙のお別れ…！

Thank you!
ありがとう

全員が2014年9月からスタートした留学の全日程を無事に終え、ついに迎えることになった帰国。
7月15日、各自の日本の「ふるさと」を後にし、全員が東京に集合。留学生活の総括となる「帰国前研修」を行いました。進路指導として、日本の大学進学についての講義や早稲田大学訪問を行い、また仲間たちと東京タワーやNHKスタジオを見学するなど最後の思い出をつくりました。
帰国前報告会では、日中交流センター所長よりひとりひとり声をかけられながら、感無量の面持ちで修了証書を受け取りました。レセプションでは会場に駆けつけてくれたホストファミリーや友人、来賓の皆様に向けてサプライズでZONEの『secret base〜君がくれたもの』の歌のプレゼントを。
翌日、たくさんの想い出を胸に、第九期生31名は母国・中国へと帰国の途につきました。

アンケート結果

第九期生に聞きました！

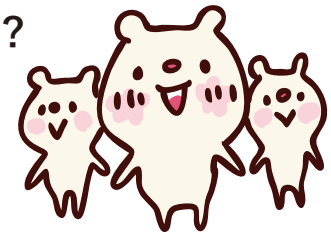
約１年間の留学生活を終えた九期生の皆さんに、さまざまな質問をしてみました。皆さんの声をぜひお聞きください！※生徒個人の感想です。

Q 日本語を勉強し始めたきっかけは何ですか？（複数回答）

comment

日本のアニメ・漫画の人気は例年通り圧倒的です。
日本語を学び始めたきっかけはさまざまですが、
今はそれぞれの目標などを持てるようになったでしょうか？

Q 仲の良い友達はできましたか？



たくさん出来た 67％

Q 日本語は上達しましたか？

とても上達した 60％

Q 日本の社会や文化について理解できましたか？

とても理解できた 50％

Q 日本での生活を通じて、自分は成長したと思いますか？

とても成長した
70%

具体的にどんなところが成長しましたか？（複数回答）※「語学が上達したこと」は除く

1位 社交性・コミュニケーション能力の向上 **23%**

2位 自立性・自己管理能力がついた **16%**

3位 生活能力の向上 **10%**

comment 3位の生活能力の向上は、「料理裁縫などの家事が出来るようになった」、「衛生観念がついた」、そして「電車の乗換えが出来るようになった！」との回答が含まれます。

Q ホームステイ・寮生活は良かったと思いますか？

そう回答した一番の理由は何ですか？

ホームステイ

- 日本の生活を体験できた。日本文化や習慣に触れられる機会が多かった。
- 本当の家族のように接してもらえた。
- いろいろなところに遊びに連れて行ってもらった。

寮

- 設備がよく食事がおいしい。
- たくさんの人と接する機会が多く、学年の違う友達も出来た。
- 自己管理が出来るようになった。時間を守るようになった。
- 餅つきや鍋大会など寮のお祭りで日本文化を体験できた。

comment 「心連心：中国高校生長期招へい事業」に参加してよかったと思いますか?という質問には90%が「非常に良かった」と回答。
「日本でたくさん友達が出来、視野が広がった」、「日中友好の架け橋になりたい！」との意見が多かったです。「メディアでみた日本（中国）はごく一部のものなのでこの活動を通じ日本（中国）が身近に感じられれば両国の関係がもっと良くなるはず」という意見も。

Q 来日前は日本にどんなイメージを持っていましたか？

1位 良い国。国民が幸せな国

来日前から日本に対してプラスのイメージを持っている人が多かったです。また、「衛生的な国」というイメージ、部活や学校生活が充実している、勉強が楽、自由で楽しいなど。

2位 真面目で丁寧

仕事や勉強を一生懸命する／環境を守る／すごく礼儀正しい／先輩後輩の関係が厳しい／挨拶が大事／マナーにうるさい…など来日前の懸念事項も。

3位 発展した国

科学技術が発達している／電車でどこにでもいける／どこも高いビルばかりでみんなおしゃれ

4位 自然が多い

緑が多くて空がきれい／海と山があり大自然の中で生きられる

【その他】
漫画の国／女の人は専業主婦になる／いじめが多い／あいまい／生活のペースがはやい／食事が健康的…など。

Q 11ヵ月過ごしてそのイメージは…

変わった！！52%

「良い国。国民が幸せな国は」…
ハイテクはすごいけど、社会のストレス度も高い／勉強もしないとダメだった

「みんな真面目」は…
明るくおもしろい人も多い／マナーも人によって求めるものが違う。気にしすぎるのはいけない

「発展した国」は…
高いビルどころか5階以上の建物がない／東京と地方の差が大きい／電車もそんなに便利じゃない／発展しているけれども自然も多い／日本の伝統文化もちゃんと残っている

【その他】
女の人も自分の夢があって頑張っている／割と野菜を食べない／関西人はおもしろい／沖縄は人と人との距離が近い…など。

変わらなかった 48%

先輩への言葉遣い／挨拶が厳しい／想像通り空は青いし川もきれい／ちゃんとルールを守って、礼儀正しい／街にごみが少ない／運動部はハンパない！…など

Q 日本での生活、これが大変！辛かったことは何ですか？

1位 通学／気候の違い

長い通学時間、バスの本数が少ない、雨の自転車通学、電車の乗り換え…どれも日本に来て初めて経験した困難！でしたね。日本の梅雨や雪、台風など気候の違いにも悩まされました。

2位 友達関係

特に来日直後は話せる人があまりいなくてつらかった、話し方などで誤解されてしまったなど、みんな苦労しました。多くの留学生が、日本語がうまく使えないうちは、話しかけられなかったと振り返っています。また後で思えば、はじめは緊張しすぎたり、考えすぎたりしていたのかも、との意見も。

【その他】
自分の考えていることをはっきり相手に伝えられなかったこと／ホストファミリーとの付き合い方が難しい／寮にWifiがない／休みの無い部活／寮で週末の食事を自分で用意すること／友達との別れ／日本語でレポートを書くこと／ホームシック／自分の行動（マナーなど）が正しいか自信がなかった／ごみの出し方／部屋の整理／授業（世界史・体育）／体育のとき／男女一緒に着替える …など、異文化に適応することにそれぞれ四苦八苦したようです。

Q 留学中、感動したことは何ですか？

1位 お別れ会

クラスや部活、ともに生活したホストファミリーや寮の仲間たち。別れがつらかったのはこの1年間がすばらしかったから。サプライズの送別会、プレゼントや手作りのカード、アルバム…みんなの思いが伝わってきたのに感動したという回答が一番多かったです。

2位 日本で受けた親切・思いやり

初めて教室に入った瞬間、黒板に書かれた自分の名前と中国語のメッセージが目に入った瞬間、帰宅が遅くなったとき駅で寒い中2時間も待っていてくれたホストファミリー、落し物を心配してくれた同級生たち、「家族だよ」「親友だよ」と声をかけてもらったこと…感動したのは本当の家族のように接してもらった、みんなが自分を気遣ってくれる気持ちが伝わったからと回答してくれました。

3位 お誕生日会

サプライズでお祝いをしてもらってうれしかった、ひとり異国にいてまわりの優しさに感動したという回答が多かったです。思い出に残る誕生日になりましたか？

【その他】
たくさん友達が出来たこと ／ 街の風景がアニメで見たとおり ／ 水道水が飲めること ／ 好きなアーティストのサインが抽選で当たった！

Q これだけは中国にいる友達・心連心の後輩たちに伝えておきたい！と思うことを自由に書いてください。

1位 みんなやさしいよ！

2位 日本に来てくれたら、きっと印象がかわるよ！

3位 食べものがおいしい！

【その他】
日本のいいところはぜひ学んで ／ もっと運動をしたほうがいい ／ 言いたいことはすぐ伝えたほうがいい ／ やりたいことはすぐにやる ／ 今を大事に ／ 日本にきたら自分の心を開いて ／ 日本語頑張ってね ／ 1年間満喫しとけ ／ 留学は良い経験です ／ 1年間、楽ではなかったですが最後までやり遂げられてよかった！

第九期生 好きなものランキング

あなたの日本の好きなものを教えてください！

書籍（作家）編

No.1 夏目漱石（こころ・三四郎など）

No.2 村上春樹（ノルウェーの森など）

No.3 京極夏彦（魍魎の函など）
東野圭吾（白夜行・真夏の方程式など）

【その他（作品）】
弱くても勝てます／リアル鬼ごっこ／手紙／夏と花火と私の死体／青春／伊豆の踊り子／窓ぎわのトットちゃん／化物語／やっぱり俺の青春ラブコメはまちがっている。／レインツリーの国／図書館戦争／君と会えたから…／億男／世界から猫が消えたなら／予告犯／菊と刀／河童黒子のバスケ／名探偵コナン／銀魂／ワンピース／銀の匙 Silver Spoon／ジョジョの奇妙な冒険

comment 漫画は広く人気でした！
数学IIIや有機基礎科学、という回答も…。

テレビ番組 編

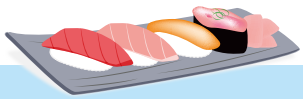
No.1 世界の果てまでイッテQ！

No.2 くりぃむしちゅーのハナタカ!優越館

【その他】
ミュージックステーション／奇跡体験！アンビリーバボー／世界一受けたい授業…など。

comment バラエティ番組の名前が多くあがっていました。
他はジャンルでスポーツ番組や
朝の情報番組など。紅白歌合戦という回答も。

食べ物 編



No.1 寿司

No.2 ラーメン

No.3 納豆

【その他】
刺身／カレーライス／たこ焼き／焼きそば／ざるそば／からあげ／焼肉／すき焼き／たい焼き／味噌汁／ホストマザーのつくったお菓子…など。

アーティスト 編

No.1 GreeeN／嵐／西野カナ

No.2 木村拓哉／EXILE／神木隆之介

【その他】
澤野弘之／薪房昭之／宮崎駿／ Kis-my-ft2／山下智久／いきものがかり／ DJ OKAWARI／生田斗真／上野樹里／ゆず／宝塚歌劇団／木下ほうか／堺雅人／ SMAP／小西克幸／杉山紀彰／ HY／大原櫻子／小野大輔／平川大輔／久石譲／梶浦由紀／椿泉／福井蒼汰／ AKB48／成田凌／中条あやみ／岡田将生／福山雅治／ vocaloid／ Supercell／遊助

映画 編

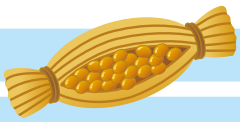
No.1 宮崎駿作品
（千と千尋の神隠し・魔女の宅急便など）

No.2 劇場版　名探偵コナン

No.3 ノルウェーの森／寄生獣

【その他】
ビリギャル／リリィ・シュシュのすべて／君に届け／私と犬との10の約束／エヴァンゲリオン／告白／ソロモンの偽証／予告犯／ NARUTO／ラブライブ！／暗殺教室／ワンピース／呪怨

番外 編
嫌いな日本の食べ物は？？



No.1 納豆

No.2 生もの（刺身）

No.3 しそ／わさび／つけもの

【その他】
生卵、日本風の中華料理、魚、おくら、ひじき、ごぼう、味噌汁など。

comment 好きな食べ物3位の納豆がワースト1位！
4年連続ワースト記録更新です。
食べ物の好みは中国の出身地ごとの味付けや、個人の好みによっても違ってくるのでしょうか。

帰国を前に
ー作文集ー

笑いあり、涙ありの1年間。
それぞれの充実した日々、
関わった人々へのメッセージ、
九期生に思うままに語ってもらいました。

人生の宝物

立命館慶祥中学校・高等学校／東北育才外国語学校
楊　明哲　YANG Mingzhe

飛行機の窓から遠くを見つめ、どんどん大きくなる全く知らない町。ここでの一年間、当時16歳の未熟な私にとって一体これからどんな体験が待っているのかと想像しながら私は札幌に来ました。

初めての日本人の友達、初めての野球、初めての一人の旅行。中国の同級生たちが一生かけても体験できないことをして、私は本当に幸せ者だなと思っています。日本での一年間は私にとって、後悔もなく充実した日々でした。毎朝欠かされることがない後輩たちからのおはよう、授業前の挨拶、昼ご飯の弁当、次から次への模試、定期試験前の不安。もう慣れた生活の中の些細なことはあっという間に終点を迎えます。私はもうすぐ帰国し、日本との繋がりに一旦区切りをつけます。

みなさんは中国にどんな印象を持っていますか？私が日本に来て、一年間日本人のように生活して感じることは、綺麗な環境はさることながら優れたマナーも世界を魅了しているということです。しかし、ハイスピードで発展している中国経済と共に失われていく中国人のマナー。秋葉原での爆買、サービスの態度の悪さ、中国製商品の品質の悪さ。このことは非常に残念だと思いますが、じっくり考えると今の中国はまだバブル時代の日本と同じく、お金さえ儲かればどんな手段でも取るという考えです。私が思うに公共マナーの改善は自分自身の足元から、つまり細かいことからしなければなりません。自律は全てのマナーの基本で、本当に優れたマナーを持っている人は他人が意識していないときでもきちんとマナーを守っています。その自律心は今の中国人にとって、経済の発展よりもっと大切なものだと思います。

『高校生こそ留学しよう』と一度高校スタッフルーム前に貼ってあったポスター。やはりいつ見ても日本に来て良かったという気持ちが溢れてきます。『何かを得るために必ず何かを失う』。もちろん16歳一人で外国生活を送ることは大変ではありますが、得られるものは一生忘れられない人生の宝物となります。みなさん、命は一度しかありませんから夢があれば迷わず外国に留学しましょう。時間は一瞬、出会いは一生。立命館慶祥でのみなさんとの出会いは、私の中で一生輝き続けます。二年後、私も日本の大学を受験し、自分の夢を追い続けていきたいと思います。この一年間本当にありがとうございました。

一年の心得

北海道札幌清田高等学校／石家荘外国語学校
周　寅培
ZHOU Yinpei

人を落ち着かせる香りに包まれる和室で、お茶を楽しみながら、抹茶の若干苦い心に染み渡る香りが運ばれてきました。初めてのお茶は口の中に抹茶の香りを残しました。香ばしい香りと苦い味で、思いがだんだん遠いところに行ってしまいました。

このお茶を楽しんだ私はどんな表情だったんだろう、どんな気分だったんだろう。その時の私は一人で見知らぬところに行って、緊張感と不安の気持ちを持ちながら、期待をしていました。友達ができるかな、どんなクラスメートがいるだろう。ドキドキしながら、教室に入りました。入った瞬間、黒板に自分の名前とみんなからのメッセージが大きく書いてあるのに気づいて、本当に感動しました。涙がこぼれるぐらい心を強く打たれました。その瞬間まだ心細かった私はそれで凄く励まされました。どうやって異文化の壁を越えて交流するのか、正直凄く心配でした。でも、みんなが話しかけくれたり、札幌のいいところを紹介してくれたり、いっしょに遊んでくれたり、毎日笑顔で挨拶してくれたりしていました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。もともと人見知りの私がみんなのおかげで勇気をもらえて、自分から話しかけるようになって大切な友情をもらいました。友達と過ごす時間は、毎日充実しました。やっぱり、心でぶつかって、本気で向き合う気持ちがあれば、どんな茨があっても乗り越えられるんではないかと思いました。部活も凄く楽しく参加することができました。最初に茶道部に入ったとき、何もできなくて、焦りました。でも、茶道部のみんなが熱心にいろいろ教えくれました。お茶の入れ方とか飲み方とか後の片付け方とか丁寧に説明をしてくれました。みんなのおかげで、日本の伝統に触れ合えるようになり、いいしきたりと振る舞いを身に着けられるように、頑張ってきました。ディベート部では、いろんな資料を読んだり、肝心なところやキーワードを短時間で探すのは難しかったです。そして滑舌の悪い私はよく噛んでしまい、難関でした。わからないところがあったら調べたり部長に聞いたりして何とか乗り越えました。こういう困難を挑戦だと思って、毎回戦って、新たな心得をもらっています。部活で大事な経験を得て、本当に勉強になりました。

茶道には、『一期一会』って言う言葉があって、茶会に臨む際には、この機会は二度と繰り返されることのない、一生に一度の出会いであることを心得て、亭主、客ともに誠意を尽くす心構えっていう意味なんです。広く言えば、『あなたとこうして出会っているこの時間は、二度と巡っては来ない一度きりのものだ』という意味があります。日本で過ごした日々は本当に夢のようでした。短かかったけれど、充実しました。美しい国で、みんなと出会って、美しい日々で、一緒に美しいことをして、私たちで美しい思い出を墨にして、美しい一筆をしたためました。

『別れ』に弱い私にとっては、帰国の日が近づいてくるのにつれて、なんとなく悲しくなりました。やっぱり未練があるだろうなぁ。一年間ずっとそばで付き合ってくれた人と離れるなんて、あまりにも切ないです。人は美しいものを失った後、大切にすべきだったと気づきます。失ったからこそ、美しく感じられると言われています。だから、美しいものを失う前に、その美しさを十分感じるようにしています。あと一ヶ月ほどで帰国となりますが、残された一ヶ月を、悔いのないように、がんばります！本当にみんなに出会ってよかったと思います。

夢が遠く

盛岡中央高等学校／天津外国語大学附属外国語学校
王　志涵
WANG Zhihan

夢はまだまだ遠くて、この一年は無駄にしたかなあ、多分追いつく可能性がないかなあと思っています。一年耐えてきました。同期生の人から「耐えることより、自分で楽しませるほうがいいんじゃない」と聞いて、なんか自分のことをちゃんと考えました。自分で一人で生活して、いろいろ試してみて、結構つらい事が多かったです。でも今までも負けずに楽しく過ごしました。自分の思った以上に達成しました。その中で一番大切な成果は、いろいろな悔しさだと思います。

成果といえば、誰の成果も一言一句で済まないと思います。ただし、多くの人はほとんど実際の成績でしか認められません。考えてみたら、自分の本当の「成果」の証拠とは、1年間の月例報告、学校の成績証明、中国へのプレゼントしかないかなあと思っています。中間研修が終わってから、希望満々で帰って、研修期間のグループワークに書いていたことも頑張ってやりました。でもそれが大体済んだら、また研修前の状態に戻りました。目標に迷っているんです。

日本に来る前、親や先生たちは「日本でコミュニケーションして、いろいろな場面に対応できる能力を鍛えるのを頑張って、勉強についていけるだけで、他は無理しなくていい」ということを言いました。自分は小さい頃から、親を頼りにする人です。自分が気づかないうちに、自分が考えるのを無意識に避けてきたことかもしれないんです。中学校の時はずっと楽しい様子で過ごしました。ですから、みんなにこんなことを言われて、自分が心の暗示が強かったと思います。

ですから、この目標を一応達成してから、「なんとなく頑張る」という目標がない状態に入りました。この「なんとなく」は足を引っ張られた主な原因だと思います。自分も何度も考えました。なんで怠け者になったのでしょうか。学校生活か日常生活のどこかガッガリしているか、と考えてもわからないです。これは多分最も残念なことです。

でも、こんなことを思い続けていたら、時間の無駄にもなるかもしれない、と心連心の先輩たちあるいは先生たちから聞いたら、こんな思いは一応おいておこうとしました。人生はだれでも完璧じゃない、と自分を慰めていて、こんなのは正しいかなとはわからないです。でも、自分が頑張ったとしたら、どこまで行っても許せると思います。それは私自身を慰めることかもしれないんですが、その上、人に対して時々尊敬な気持ちになりました。そして、判断力も少しずつ増えたかなあと思っています。

「このままでいい、人生は自分で決める」というのは無責任ですけど、周りの人にもこう言われても、なんかわからないですが、今まではこうやって逃げました。帰国直前に、久しぶりにこれを思い出したら、自分の不足に悔しいという思いになりました。自分はこんなに迷惑かけているのに、このままでいいのか、と思い始めました。

でも帰国直前はどうやって頑張っても、色々残念が残りました。体育大会、高総体、家族旅行などはやっと自分から頑張って入り込みましたが、やっぱり一年の大部分は怠けていました。最近自分から言い出したら、やっぱりみんなは嬉しそうに付き合ってくれました。だれでもはっきり嫌がるわけはないことがわかりました。昔はみんなとの交流が少ないし、自分のこんな思いがきっとわからなくて、いろいろ誤解があったと思うんですけど、それでも受け入れてくれて、本当にありがたいです。

日本にいる一年間は、日本語は大体大丈夫になった上に、このようにいろいろな考えしか残らないんですが、帰国後の生活に役に立つかもしれないと思います。悔しいこともあるんですが、今までは十分だと思います。どうやって頑張りたくても、もう過去の事になりました。まるで夢みたいな感じです。知っている人と生活したところは、今後にあんまり関わらないと思います。この一年間が終わるのは夢の結末なんですが、新しい夢への始まりじゃないですか。具体的な成果がないとも言えるけど、自分への慰めかもしれないですが、最も大切な成果は、いろいろな悔しさだと思います。夢はいつでも遠いだと見えますが、こんな一年間の経験で、夢にはもっと遠く離れましたが、夢への道がなんか少しずつ見えるようになったみたいです。ちょっと悔しい気持ちが多すぎるかもしれないですが、今後の人生はこんなつらい経験で、遠い夢へ、追いかけるように、頑張ります。

藤村さん、この一年間ありがとうございました！普段はいつもお母さん、お父さんと呼んで、ずっと生活で色々サポートしてくれました。そしていろいろなところにも連れて行って、自分が頼みがあった時もすごく手伝ってくれました。ありがとうございました！小笠原先生、石川先生、本当にありがとうございました！最初にここに来た時色々わからないところがあったんですけど、何も言わずに手伝ってくださったのは先生でした。本当に感謝しています！斉藤先生、村上先生、二年生の半年間は本当にお世話になりました！自分は話し合うのは下手なのに、先生たちは手伝ってくださいました。ありがとうございました！畠山先生、本当にありがとうございました！日本に来て一番頑張ったことは剣道でした。そして一番長くお世話になったのは畠山先生でした！いろいろ性格が悪いし、先輩たちにも迷惑かけましたが、いつも理解してくださってありがとうございました！岩崎先生、ありがとうございました！先生はこんなに優しいから、一番お世話になりました！先生のお陰で、いろいろ日本のことを知りました。ホームステイでも招待してくれて、ありがとうございました！自分のことばっかり考えたかもしれないが、いつも応援してくれたのは昂輝でした。ありがとうございました！剣道部のみんな、クラスのみんなも、受け入れてくれて、ありがとうございました！学校の先生たちも、いろいろ教えてくれて、ありがとうございました！センターの先生たちも、悩みを聞いてくれて、色々サポートしてくれて、ありがとうございました！みんなの努力を流さずに、頑張ります！

ありがとうございました！

Nice to meet you

秋田県立秋田北高等学校／上海市甘泉外国語中学
全　嘉楽
QUAN Jiale

「ほら、あの薄いピンクの建物はからくちゃんがこれからいく北高だよ！」電車の中、ホームステイ先のお母さんは遠くにあるところをさして、そう言った。その瞬間、わたしははじめて強く「自分はもう日本にいる」と言うことを実感した。あの「おめでとうございます」と書いているメールがきてから、もう二ヶ月ぐらいたった。「あっ、ゆめみたい」と思いながら、東京で研修して、いよいよ秋田についた。

自然、緑を大切している秋田と上海の人工で作った華やかな美は全然違う感じだ。正直に言えば、わたしはまだ秋田の美しさになれていない。でも、わたしは秋田で最高の出会いがあった。そして、忘れられない思い出ができた。

この一年間ぐらいで一番感謝したいのはやはりホームステイ先のお母さんとお父さん。今でも初めて一緒に出かけるときのことを覚えている。セミの声を聞きながら、栗を拾った。そして、そのとき初めて日本の一番深い湖田沢湖を見た。あのゼリーみたいなおいしそうな色がとても印象に残った。雪を見に行ったり、海にいったりすごく楽しかった。自分の家にいるみたいに毎日毎日幸せだった。

秋田で過ごした日々、わたしはほとんど学校にいた。9月8日、わたしは1-Bの教壇に上がって、みんなの前で自己紹介をした。あれからもう9ヶ月ぐらいたったとは思えない。今でも、あの日窓から差し込んだ朝日、風にゆれている松の影、新しいクラスメートのやさしそうな笑顔をはっきりと覚えている。あの日の休み時間、いろんなひとがわたしのところに来て自己紹介をしたが、ほとんど覚えられなかった。とてももうしわけないと思いながら、頑張って2ヶ月ぐらいかかってクラスみんなの名前を覚えた。

こういっても、実はみんなのおかげだと思う。毎日「一緒にご飯を食べよう」と言う子が何人かいるし、移動教室のとき案内してくれる子もいる。知らないうちに、もういっぱい話のできる友達ができた。毎朝、遠くからわたしの姿を見た友達が微笑みながら「おは~」と挨拶してくれた一瞬、わたしは言葉でちゃんと説明することもできないぐらいうれしかった。

あっという間に、4月になって、わたしも高校二年生になった。文系だから、Aクラスになった。新しいクラス、知らない顔ばっかり、不安だけど、すごく楽しみにしてた。新しいクラスになれたばかりなのだけれど、不思議なぐらい、いっぱいの思い出ができた。6月の合唱コンクールと文化祭のために頑張っているみんなの姿は一生忘れない。結果はどうなるかまだわからないけれど、私にとって、みんなはもう最高だ。夜の星空みたいに自分なりに輝いている。

毎日の学校生活の中で、わたしが一番楽しみにしているのは放課後の部活の時間だ。わたしは北高の演劇部と茶道部に参加している。

日本に来る前、わたしはずっと日本の演劇部はすごいと思っていた。「絶対演劇部に入ろう」と長い時間思っていた。だから、こっちに来たら、すぐ入部届けを出した。あれは9月末、ある日のことだった。初めて4階の教室に入って、演劇部のみんなとあった。「にぎやか、楽しそう、ちょっとゆるい、でも絶対みんなと仲良くできる」超普通の第一印象だった。しかし、おかしいなぁーあの日のことは今でも昨日のようにはっきり覚えている。

笑って、騒いでコンクールで最優秀賞になった。頑張って、緊張して、県大会で優秀賞になった。東北大会に出られなくて悔しかったけれど、裏で見えたみんなの背中は一番かっこよかった。それからもう長い時間がたった。今はいっぱい優秀な後輩が入ってきて、強力な後ろ盾になってくれてうれしい。

最初は正座があまりにもつらいから、茶道部に入るつもりはなかった。でも、同じクラスの茶道部の友達に誘われて、行ってみた。茶道部の先生はすごく優しかった。そして、お菓子もおいしかったから、茶道部に入った。いろいろなことを覚えなければならないから、大変だった。でも、すごく楽しかった。最初はやはり足がしびれてしまって、5分ぐらいしか正座をしていられなかったけれど、今ではだいぶ慣れて、30分も正座をしていられるようになった。

ここにいるのはあと1ヶ月ぐらいしかなくなってしまった。まだここでやりたいことがいっぱいある。もう一度美しいもみじをみたい。もう一度真っ白の世界を感じたい。もう一度桜色の道を歩きたい。もう一度教室に入ってくる日差しと涼しい風を感じながら、両手でほおづえをついて遠くを眺めたい。でも、今となっては、こんなことを言ってももう遅い。今、一番強い気持ちは、秋田の青空の下でみんなと出会えて本当にうれしいということ。わたしは意味のない出会いは絶対ないと思う。いろいろなことを教えてくれてありがとう。ここでのたくさんの出会いをわたしは忘れない。本当にありがとう！

私の目の中の一期一会

山形県立酒田東高等学校／東北育才学校
陳　思宇
CHEN Siyu

いつも通りの夏だ！抜けるような青い空、漂う白雲、焼け付くような強い日差し、あるいは絶えないさらさらの雨、緑の活気にあふれている景色。でもそこに、どこか悲しい兆しが感じられる。そうだね、そろそろ終わるね、美しくて儚い夢が。

先輩たちの日記では、「まるで夢の一年間」という言葉が多かった。正直に言うと、当時の私は理解できなかった。しかし、今の私は、その立場にいるような気がする。一年間が長いと思いきや、さも速かった。矢のごとく速く過ぎ去っていった。

まだ記憶に残っている、去年の北京面接、9月の来日、東京研修、中間研修、酒田祭り、クラス送別会。多くの出来事が目の前にさっと現われ、どこから書き始めたらいいかわからない。

学校での初日は大変緊張した。すべての一年生の前で自己紹介をした。視線がうろうろして、みんなの顔を見ることができなかった。これで、私の留学生活の幕が開いた。

初めて教室に辿って、積極的に案内してくれて、話しかけたあの成績が良くてかわいい女の子／右側に座って、私と一緒に弁当を食べたあの背が高くて明るい男の子、クラスが離れた今も毎日雑談する／東京キャリア研修にずっと私と一緒に行動したかっちゃん、今は親友になった／私に筋肉の作り方を教えてくれて、腹筋の写真を送ったマッチョ（笑）／コナンの映画に誘う英会話部の同級生／敬語を使わなくても構わず、弓道も日本語もいろいろ教えてくれた優しい先輩たち／いつも私のことを注目して、助けてくれた最高の先生たち／もちろん、この素晴らしい留学生活のチャンスを用意してくれた国際交流基金に何度も心をこめてありがとうという気分を伝えたいんだ。

私は、わりと感情にもろい人だ。特に「別れ」の時に涙をこらえるのはいかにも大変だ。元1組の生徒たちとの別れ、中間研修の終わりにおける、大阪駅や空港での別れ、そして部活の3年生先輩たちとの別れ…何も感じていないふりをしても実は別れたくないのだ。「別れ」に耐えられないといっても、これは失ったからこそ美しく感じられるものでもある。ミロのヴィーナスのような、両腕を失ったからこそ、人々に無数の美しい腕を想像する空間をあげ、時代を越えて、夢を実現することができる。会うチャンスを失ったからこそ、その完璧な記憶がもっと深くとどまる。

最近、三年生の先輩と『一期一会』について討論した。彼によると、『一期一会』の意味は、一生で一回しか出会えないということを心得て大事に相手と付き合って、その後は会えなくても残念という気持ちを残さない、というものだった。

私もそうと思った。しかし、一生で一回しか会えないのはあまりにも切ないものだ。それより、一生一回しか会えないという考えをもって相手と付き合って、再会の際もこの考えをもつことを望んでいる。むしろ、そのあるかどうかもわからない再会のため、自分はもっと優秀にならなければならないと意識して生活する。

だから、みんなとの再会の際に完璧な私であるために、私は頑張る！想像を絶するつらさかも知らないけど、みんなからもらった力を使って自分の限界を突破する！

最後に、もう一度、この一年間に出会ったすべての人に、出会ってよかった。これはまさに縁である。本当にありがとうございました！

仙台での日々

仙台育英学園 秀光中等教育学校／武漢外国語学校
鄒　欣然
ZOU Xinran

去年の九月四日、宮城県の仙台、正確にいうと多賀城市に到着しました。そして、長い間、待ち続けていた日本での留学生活を始めました。多賀城の寮は静かでいいところでした。多賀城は、知り合いの話によると年を取った方が多いそうです。ラーメン屋や飲食店にはお爺さんやお婆さんが多く居ました。顔見知りではなくとも、たまに道中であって挨拶をすると返事をしてきます。このように寮の周辺は平和な感じでした。

私が通っている秀光中等教育学校は仙台育英学園に付属している高校です。隣に同じ仙台育英高校に付属している仙台育英学園があって、制服も外靴も全く一緒です。最初はとても迷っていてどこの教室に行くかさえ分かりませんでした。

しかし、現在では、この授業ならどこの教室に行くか、というのが簡単にわかるようになりました。クラスメートの顔がわかり、声を覚えて、目をつむっても周囲の様子を理解できます。今までの生活を振り返ると、とても懐かしい気持ちがします。今のクラスを教えている先生、前に教えてくださった先生、見知らぬ先生もいます。学校の関係者の人たちに挨拶をすると、気持ちが晴れてきます。そういうほほえみを見て少し満足します。こんなにも穏やかで平静な毎日です。

思えば、九月に合唱コンクール、十月に球技大会、また合唱の練習をしましました。それから卒業式や、卒業生懇談会などで学校の先輩たちとの交流もありました。本当に不思議とも言えるが、同じクラスの友人が四年生の頃はまだ子供みたいだったけど、あれからいろいろあってだんだん大人に近づいていったような気持ちがします。騒がしいほど元気なところは変わっていませんが、雰囲気が変わったと感じます。先生方からいろいろ厳しく指導されるようになったのは、宮城野校舎に移転したことが一つの原因だと思います。五年生になると、いつの間にかあどけない少年たちが、強い意志を持ち輝かせるような眼差しで前を向き始めました。特に球技大会の時、自分たちで作戦を練り、毎日練習する姿が、とても素晴らしかったと思います。みんなで協力して優勝もできました。アナウンサーから成績発表された瞬間、自分はうれしい気持ちでいっぱいになりました。あの時は本当にここに来てよかったな、と思いました。

シャトルバスで「このまま一緒に卒業までいられればいいな」と言われた時、すごく嬉しかったです。もうすぐ行ってしまうことを思い出すと、なんだか切なくなります。仙台はどういうところだろうと、自分に聞いてみました。仙台の人はあまり方言を使っている感じがしないと言われているが、そのやや愉悦な語調もあります。それを聞くたび、こっそりと笑ってしまいます。私の学んだ秀光中等教育学校のクラスメートは元気で優しくて明るく親切です。これまでの留学生活を顧みると懐かしくて、愛しい気持ちが胸から湧いてきます。何年も付き合っていた友人のような、ここはそういうところでしょう。

一期一会、ありがとう

埼玉県立和光国際高等学校／東北育才学校
王　歩雲
WANG Buyun

一年間の留学生活はもう直ぐ終わる頃です。振り返ってみれば、一日一周一ヶ月は一秒一分一時間のように感じますけど、私がこの一年間に確実に成長して来ました。

私が日本に来た理由は日本の高校生の生活を体験したかったです。実際に日本で生活したら、最初はなんでも新鮮でした。通学の電車、授業、制服、日本語などなど日本学校の代表的なものに慣れるまで、電車間違ったり、日本語下手くそだったり疲れてたけどいつも助けてくれる人理解してくれる人がいたから違いを乗り越えられ、楽しめました。日本の学校と中国の学校多くの違いがあります。同じく勉強のストレスがあるけど、中国の学校よりもっと他のものも重視してます。その中体育授業が印象深いです。私は学校での初日から体育の授業がありました。いきなり学校外周走るのが辛かったし、途中から雨降り始めてびしょびしょになったけど、今でもたまに思い出せる楽しい経験でした。国により学校により、重視するものが違うから、私は両方も体験できたから、視野が以前より広がって自分の長所短所をわかってすごく良かったと思います。

日本の物事になれる一方、私たくさんの人にも知りました。中国にいた時はずっと同じのクラスで勉強したので、人間関係のことあんまり考えたことなかったです。しかし、日本に来て、研修センターから各自出発した後から、私も皆も全く誰でも知らない世界に入りました。こんな状況にいたことなかった私もこれから成長し始めました。先輩からのアドバイスもあるし、自分も想像をつけるし、これから新しい友達作ろうって感じでした。でも、自分が選択する場合が多かったから、結構迷っちゃいました。その人に声をかけようかな、今何を言えばいいかなってわからないところがたくさんでした。だけど、私はいろんなことに悩んでた後、いつのままにそばに友達がいる、授業の内容わかるようになって部活も先輩になりました。先生の授業先生、ホストファミリー、クラスメート達、人数を数えてみれば、そうぞうおそろしいかもしれません。私の記憶にそんな多くの人たちもいるねって感じてます。名前、顔だけじゃなく、一緒の出来事、その人の性格…たまに一緒に喋った話も覚えてるかもしれません。そして、忘れたくないです。中国に帰るにはお土産買いますけど、この記憶の方が私の一年間の成長を象徴して私が永遠に持っていて貴重な宝物だと思います。

日本にいた一年間にいろんな新鮮なことがいつか習慣になり、知らなかった人が友達になり、なんでも当たり前なことになった今がつい帰国の時期になりました。一年に会った全ての人とがんばってきた自分に感謝しか言えません。日本に来て楽しかったです、ありがとうございました！

今日からの毎日を楽しむ

埼玉県立蕨高等学校／済南外国語学校
李　文馨
LI Wenxin

日本へ来たのは去年の九月だった。周りの方々のサポートのおかげで、日本での生活は案外順調だった。みんなが優しすぎて自分が調子に乗ってついつい甘えてしまう自覚もある。休日は電車に乗ったらどこへも行ける、どこへ行っても新しい発見がある。毎日新たな「出会い」に心を躍らしている。学校では部活にも入って、仲間ができて、うれしくて仕方がなかった。

中国にいた時、日本の部活のように時間と力をかけてやることは勉強以外ほとんどなかった。初めて自分が入っている漫画研究部の活動時間は四時から七時までだと聞いた時とてつもなくびっくりした。週二回三時間も漫画ばかり描いてて正気か、いつ勉強するの、とその時思ったが、その後卓球部に所属している友達の平日七時までかつ休日半日ぐらいの練習メニューを見て絶句した。

正直あの時期の自分の状態はかなり不安定だった。日本へ来ると決めるまえに、好きな先生の一人と話していた。「自分が望んでいる未来を描いて、そのために役立つことを考えよう。君は日本でこの一年間を過ごした方がより将来のためになると思うのであれば、行った方がいいと思うよ。」と言われたが、自分はあまり考えずに意地を張って日本へ行くと決めたが、心の中で、この方が将来のためになるのかと、ずっと疑っていた。部活をしている間も通学しているところも、ああ、中国にいる皆が勉強しているのに、私は今何をやっているのだろう、こんなのに意味があるのだろうと、とりとめのない焦りを覚えていた。しかし、今になって逆にその時の自分の悩みが分からなくなってきた。知らないうちに私が変わっていたのでしょうか。

私はずっと明日のために頑張っていた。望んでいる明日のために、道を選んでいた。自分の能力を磨き上げるのも、いい大学に入ろうとするのも、より幸せな未来を掴む可能性を高めたいからだ。しかし、幸せな明日を掴むために、私は「今日」の可能性を押さえていた。小さな喜びより、もっと大きな幸せを求めていた。だが、日本で初めていっぱい時間かけて未来のためにならないことを一生懸命やっていた。嬉しかった。満足だった。そして気づいた、今日だって人生の一ページなのだ。今日は明日のために存在している訳ではない。今日は今日だ。未来のために頑張るのがいいことだが、今を犠牲にしなくてもいいのだ。やりたいことがあったらやればいい、私たちにはそれらを全部実現できるだけの力がある。だから勝手にそんな重い決意をかけなくてもいい、毎日を思いっきり楽しんでいた方がいいのではないかと今の私は思っている。いつか幸せになるのではなく、いつも幸せでいたいのだ。少なくとも今の私は幸せだ。今この目に見える幸せを、全部掴みたいのだ。欲張りだなと笑われるかもしれないが、若い私たちが欲張らなければ、誰がすると言うのだ。

日本で得た宝物

千葉市立稲毛高等学校／上海市甘泉外国語中学
林　澤宇
LIN Zeyu

光陰矢の如しです。とうとう帰国、思いはやっぱり複雑です。荷物整理の手を休めて、アルバムをめくりながら、この1年のさまざまな出来事を振り返ってみました。来る日も、来る日も、新しい挑戦が待ち受けていました。ホームステイ先で暮らし始めたばかりの頃の緊張した顔、自分で書いた投稿が朝日新聞に掲載された時の得意げな顔、バレンタインで生まれて初めてチョコレートを作った日の幸せそうな顔、自分自身のさまざまな顔が、アルバムの写真におさまっています。

この1年間のメモリーは、私の大切な宝物です。その中から、いくつかあげてみます。まず、2015年の1月、千葉市立文化会館で開かれた千葉県下の高校のジョイント・コンサート。私は毎日部活で練習したチェロをこの演奏会で弾きました。大きな会場、たくさんのお客。日本へ留学する前、さわったこともなかったチェロです。緊張しましたが、私の心は達成感でいっぱいでした。なんだって挑戦すれば、できるんだ、と自信がつきました。

そして3月、故郷を遠く離れて、初めて迎えた誕生日。私の心を察して、にぎやかにカラオケで誕生日を祝ってくれたホストファミリーのやさしさに、感動しました。そして、帰国の1か月前に、夢が実現した「外国人による日本語弁論大会」への出場。

1960年から続くこの弁論大会への出場は、日本の文化や日本語を勉強する外国人にとって大きな挑戦です。米国、ベルギー、セネガル、ポーランド、トルコなど世界11か国の大学生や社会人が「外務大臣賞」や「文部科学大臣賞」を競った第56回の大会。残念なことに私は入賞できませんでしたが、たった一人の高校生で最年少の出場者。「それだけですごいんだ」と、褒めてもらいました。この大会では、日本の文化に関心をもち、日本語を勉強している人が世界中にいることを知りました。自分が将来めざしている方向が誤っていないことを、再確認できたように思います。

留学先の稲毛高校の真坂麻紀子先生とホストファミリーを訪れた最初の日、「心を開いて新しい体験に挑戦すること」を約束しました。チェロの演奏、乗馬、カヌー、テニス、ケーキ作り、たくさんの“初めて”をこの1年体験してきました。「自分の心を開く」ということがどういうことか、分かったような気がします。それができたからこそ、自分のもう一つの目標「日本で100人の友達を作る」も、実現したのです。日本へ留学して知った、日本人の優しい心も忘れられません。

ありがとう！日本！ forever ！

東京学芸大学附属国際中等教育学校／東北育才外国語学校
趙　婉言　ZHAO Wanyan

まだ子供と大人の境、出会いと別れの交差点にいる16歳の私は、不安や期待が入り混じって、去年の九月から素敵な出会いの旅が始まりました。時間が経つのはあっという間で、知らず知らずのうちに、帰国の日がだんだん近づいてきます。この一年間育ててくださって、愛してくださった日本を離れたくないという気持ちが生じてきて、ずっとここでみんなと一緒に過ごしたい思いで胸がいっぱいです。しかし、世界が永遠に続くことは無い、出会いがあれば別れがある、気づいた時にはもう「サヨナラ」を言わないといけません。この一年間の一秒一秒が今の私の胸には強く深く刻まれています。

輝いた日々、心の成長

東京に足を踏み入れたばかりの頃、大都市のにぎやかな街並み、見知らぬ人々、なにもかもが私の目にはキラキラと映り、心がときめきました。一方、どんなに頑張っても「交流の壁」を乗り越えられない絶望、旧正月に中国の家族に会いたいと願っても会えないつらさ、期末テスト前の焦り、誰にも負けたくない気持ち、だるくなって目標を達成できなかった時の情けなさ、誰にも見せたくない涙、興奮し過ぎて寝られなかった日々…ほんのわずかなことでも今も覚えています。

初めてのスクールフェスティバル、初めてのハロウィンパーティー、初めてのスキー教室、初めての日本のお正月、初めてのバレンタインデー、初めてのスピーチコンテスト、初めての家庭科、初めてのスポーツフェスティバル…数えきれないほどの「初めて」を経験して充実した一年間を築けました。沢山の素晴らしい思い出が出来ましたが、そのどれもが私の人生の宝物です。

臆病な人から積極的な人へ、飽きっぽい人から根気強い人へ、わがままな人から思いやりのある人へ、依存した人から自立した人へ。前よりちょっぴり信念を持つ素敵な人間になれた気がします。

すべての愛、ありがとう！

「ありがとう」ずっと胸に抱き続けてきたこの思いを大好きな日本の皆に伝えたいです。世界は広くて、七十億人にいる人の海で、みんなと出会う確率は限りなく小さい。これが運命でなくていったいなんでしょうか？日本人は、バラのような強い鮮やかさはないかもしれないけれど、さくらのように、優しく素直に私の心を包み込んでくれます。

学校の先生方

まだまだ未熟な私に対して、時々落ち着かないそわそわしたような気分を理解してくださって、ずっと応援して励まして下さって、毎日JSLで日本語を教えてくださってありがとう！

ホストファミリーの方

家のぬくもりを感じさせてくださって、おっちょこちょいで掃除もいい加減にしていた私を許してくださって、いい習慣を身につけさせてくださってありがとう！

国際交流基金センターの先生方

私のわがままで、いつも迷惑をかけて本当にごめんなさい。一年間の留学のチャンスをくださって、毎月の月例報告を真剣に見てくださって、来日研修や中間研修、帰国研修などの準備をたくさんしてくださってありがとう！

自分の両親

遠く離れてこの日本にいる私をずっと見守ってくれて、私のやることに口を挟まずにいつも全力で支えてくれてありがとう！私の成長した姿を楽しみにしていてください！

日本の友達

みんなとの出会いはまるで奇跡が起こったように美しいです。最初私のつたない話を親切に聞いてくれて、話しかけてくれて、学校を休んだ時にもノートをきちんと作ってくれて、そして、いつも週末に遊びに誘ってくれてありがとう。私たちが歩いた道、笑いあった日々、一緒に頑張っていた姿は東京の地に残っていいます。私はいつの間にか違和感なくISSの一員になっていて、ここで沢山の素敵な友達に囲まれて、毎日充実した日々を送っています。「えんちゃん、帰らないで、ずっと日本にいてね～お願い！」「えんちゃんがいないときのことは想像できない」、「まだいろんなことをやってないね、もっと仲良くになりたい！」と言ってくれた時には思わず涙がこぼれてしまいました。ここで、私はみんなに何もしてあげられなかったけれど、みんなはそんな私に親切にしてくれてありがとう。

私が大好きないきものがかりの「Yell」という歌の中の「サヨナラは悲しい言葉じゃない、それぞれの夢へと僕らを繋ぐ、Yellともに過ごした日々を胸に抱いて飛び立つよ」という歌詞のように、別れの涙とともに悲しみや名残惜しさは胸に秘めて、いつか訪れるだろうみんなとの再会のために、あと2年間自分なりに思い切って精一杯挑戦していきたいです。一年間みんなからもらったものが私の人生の中でかけがえの無い素晴らしい一部になって、これからどこにいようとも、きっとひまわりのように私を包んでくれるはずです。

一年間、私はこの日本で夢を描きました。その夢をいつかまたここで叶えたいです。愛してやまない日本、ありがとう！ forever ！また、よろしくね！

いま考えていること

横浜市立みなと総合高等学校／成都外国語学校
劉　杏方
LIU Xingfang

正直言えば、何を書いたらいいかわかりません。でも今の気持ちを書くというのが大事だと思うので、敢えてこう書いてみました。雑な文章になってしまってすみませんでした。

あと一か月で終わりますね。

なんか、自分にとって得たものはたくさんあるけれど、貢献というか、他人の役に立ったことはあまりなかった気がします。何を得たかというと、ここでしかできないすばらしい経験と思い出なんだな。あと、たった一年だけなのに、いろいろと考えさせてくれたし、気づかされることもたくさんあります。たぶん同期生と比べて、大きな出来事は一個もできていないんですけど、普段の日常生活をとても楽しく感じたので、それでいいと思います。

最初は学校が嫌だったのかもしれないんですね。興味のない授業を受けても面白く思わないし、人見知りでほかの生徒さんともうまく喋れなくて、ちょっとつらかったです。いつの間にかそれが楽しく思い始めました。やはり自分から楽しもうとすれば楽しくなるのです。考え方ひとつで楽しくなるーって、お手本みたいなものなんだけど、それが人間なんですね。言葉って、思ったよりもずっと大切で不思議なものなんだというのを最近感じています。

5月にDouble Dipとしての最後のライブを行いました。一年間本当に楽しかったです。ありがとうございました。人見知りとはいえ、メンバーたちとは最初からわりとうまくしゃべれています。（自分勝手に思うだけ音楽に国境はない、というのはよくある話なんですけどバンド活動（仮）を経てまさにそうだなーと思えたのです。何言えばいいかわからなくても、音楽の話したらきっと通じるから大丈夫。そう思って自分から話しかけてみたり…できるとは思っていなかったことができました。（自分の趣味に関する話題になるとテンションが上がってちょっとうるさくなってしまうんですけど、、すみませんでしたm(__)m）（いーあるふぁんくらぶという曲がありますが、よかったぜひ聞いてみてください。日本語をちゃんと勉強しないと、と思ったきっかけです。その動画のコメントなどを見て、何回か泣かせられたことがあります…。ここに来てから、知り合った友達の中にも確かにその曲をきっかけに中国語や中国文化に興味を持った子がいました。ありがたいことです。）

中国語の授業をとっているんですが、それがあまりにも楽しすぎて、もうすぐ終わる事実を今だに受け入れることができません。（仕方ないですけど…だいすきな中国語を知ってもらえることが何よりも嬉しかったです。（日本語についていろいろ教えてくれてありがとうございました。）

そして、手話の勉強もしています。ろう者の先生に教わっているんです。手話や指文字、ジェスチャーなどを使って、ふつーに交流できることに驚きました。感想は言い切れないので、、ただえらい、と思ったのです。（電車とかコンビニとかでもよく身障者の方を見かけたりしますけど、楽しそうに笑っている顔がとても輝いて見えました。）

一番多かったのは自分の考え方の成長だったのかもしれませんが、今になったらどこから話せばいいのかわからなくなりました…。最初実感してきたことというと…口に出す言葉なんかは誤解が生まれやすくて気持ちを完璧に伝えることはできないのかもしれないですが、言わなくちゃいけないということです。失敗しても、やり直せばいい。伝わらなくても、伝えなおせばいい。

だからがんばって口を開けましょう。そこから始まるのです。

そして、もしも将来や未来のことを考えるのができなくなったら、例えば一ヶ月の目標、今日の目標、今から三十分の目標って細かくしていけばやるべき事が自然と見えてくるということです。

迷っている子にとってたいせつなことは、「夢に向かって突き進む」なんて偉そうなものではなく、「毎朝大きな声であいさつする」というような案外身近なことです。それですべてが変わります。

いろいろご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。サポートしてくださった方々に心より感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました！一生返しきれないほどの恩情です。今後も自分なりのペースでがんばっていきたいと思うので、何卒よろしくお願いいたします。未来をつくるのはわたしたちなのです。（拙いですができる限りの努力をします。）まだまだこれからです^_^

朝花夕拾

長野県長野西高等学校／武漢外国語学校
陳　美君
CHEN Meijun

昨年の9月、私は北京から2時間かかって東京に着きました。その時から、私の留学生活が始まりました。東京で短い時間とどまって、新幹線に乗って長野市に着きました。9月の長野はまだ夏の気配が残っています。白い雲が高くて青い空を漂って、遠くの山は濃かったり薄かったり鮮やかなイメージが頭に浮かんで、稲穂も柔らかい風に揺れられて、これらは私が住んでいた大都市でずっと見えなかった豊かな自然風景です。

景色に夢中になっている間に、新しい家に着きました。最初目に映るのは、日本式の家、広い庭、色とりどりの植物、澄み切った池でした。9月は夏の終わりで、空気の中にも日本のにおいがしました。

ホストファミリーのみなさんは明るく優しいです。お父さんは穏やかで頼りになる一家の主です。お母さんはおっとりして上品で、料理はいつもおいしいです。お兄さんは長い期間海外に留学したことがあって、いろいろの面白い見聞が聞けます。私たちは夜にお姉さんが作ってくれた可愛くておいしいケーキを食べたり、熱い紅茶を飲んだり、食卓をめぐって朗らかに話をしました。

庭にいろいろな野菜を植えています。いつも季節の野菜と果物が食べられて、自家製の物なので新鮮で健康です。食卓にはいつも魚の料理が並んで、それに魚に対しての料理する方法も違って、日本料理は食べ物の本来の味が残っています。日本は海に近いから、魚以外ほかの私が知らないほど多くの海産物が食べられて、特別な味わいがあります。

また、秋から冬にかけてはもう一つのホストファミリーと一緒に過ごしました。向こうのお姉さんと一緒に料理を作ったり、みんなと一緒にテレビを見ながら食べたり、とても面白かったです。みんなと深く友情ができて、たくさんの思い出を作りました。

朝の空気はとても新鮮で、人にエネルギーが与えられます。毎朝電車に乗って私は日本の四季の風景が見えます。昨年の冬の大雪は一つ一つ積み重ねて全部を真っ白にしました。これもそんなに寒くない武漢でほとんど体験していなかったので、私はすごく驚きました。電車を降りて滑らないように注意して厚い積雪を踏んで坂道を登って学校に行きました。春、家を出た私は細い道を歩いてほかの家から可愛い花の一生懸命塀を乗り越えて咲く光景が見えました。風が軽く吹いて落ちた桜の花びらも地面に広がっていました。今ますます暑くなって草叢から虫の鳴き声も多くなっています。

学校で新しい友達ができました。みんなと一緒に買い物をしたり、カラオケをやったり、私をいろいろなお店に連れていってくれました。しゃぶしゃぶも鉄板焼きも食べて、寒い冬でも暖かったです。

日本でいろいろな体験をしてきました。ホストファミリーのお兄さんが一員として準備した灯明祭りは綺麗でした。道路沿いにいろいろな灯籠が並んで、そのやわらかい光は空にあったきらきらしていた星とお互いに照り映えていました。それに、白く輝いた月の下にライトアップしていた善光寺があって、日本らしいものがいっぱいで、私はたくさんの写真を撮りました。それから、ホストファミリーが私を連れて奈良や高野山まで旅行しました。関西は素朴で昔の日本の気配に溢れていて、古き日本に戻ったような感じがします。最近善光寺の七年に一回の御開帳という活動が終わったばかりで、長野市も一層静かになりました。でも、その前、毎日朝から長い列が並びました。みんなは敬う気持ちを持って、回向柱を触って如来さまとの結縁を結べるように祈りました。

今の私が言いたいのはただ一つだけで、真心に国際交流基金や周りの人に感謝する気持ちを伝えたいです。日本にいるこの一年間、本当に楽しくて、生活も豊かになりました。

移り行く季節

敦賀気比高等学校／深圳外国語学校
陳　林嶠
CHEN Linqiao

早くも春が終わり、夏がやってきました。北陸の冬はもちろん、春と秋も日本のほかの地域より少なからず気温が低いので、こんな室外にいられないほどの暑さを感じるのは、ほとんど1年ぶりです。

休み時間に教室の窓から校庭を眺めました。その落ち着かせる風景は1年前とほとんど変わっていません。教室の中を見渡しても、賑やかな雰囲気もやはり変わっていないのです。ですがこの1年間の間、きっと何かが誰も知らないうちに変わっているのでしょう。

ふとこのクラスに入ったばかりのころを思い出しました。まだ新しい生活を始めたばかりの新鮮感と、異国の人々と交流する緊張感でいっぱいだった私は、自分から話しかけることを怖がり、結局ほとんどクラスメートと言葉を交わすことがありませんでした。そのまま何日間か過ぎて、弱気な子がやっと勇気を出して、みんなに溶け込もうとしました。そして当然であったように親切に接されて、色々な話を聞かれて、部活動に誘われて、ときどき悪気はないがからかわれて、クラスの一員として認められました。こういうみんながいるからこそ、私は自分の居場所を確かめることができたのでしょう。

不安と戸惑いは自信へと変わり、私にも自分の心を開くことができました。そう考えると、日本に来てから、私にはやはり「何か」が変わっているような気がしました。

この1年間、クラスのみんなとたくさんの思い出を作りました。遠足、修学旅行、一つ一つの出来事の中でだんだん親しくなってきました。やがて春になり、甲子園球場のアルプス席で、一生懸命プレーしている野球部員の姿を見て、私は心の中の衝動を抑えきれなくて涙を流しそうでした。その時になって分かったのは、私たちはもうとっくに仲間になったことです。

うちのバドミントン部でもそうでした。とても居やすくて、みんなとしゃべるだけでも心地よくなります。私は日本に来るまでまともにスポーツをやったことがないので、最初は大変でしたが、だんだん慣れていくと、部活に行くのが毎日の楽しみになりました。ときどき市内のほかの高校と練習試合を行い、スポーツを通してより多くの人々と交流することができました。全国へ名を広げた野球部と違い、とても強い部活とは言えませんが、みんなは少しでも試合で勝てるために必死に頑張っています。引退試合の日が訪れるのはあまりにも早かったです。1回戦も突破できず、未練を残して終わりましたが、みんなと最後まで頑張ることができて幸せだとも思いました。

「絆」という言葉は実に不思議だと思います。

夏の昼下がりにとっては最高に清々しい風が窓から入り込んできました。そして、私はこの季節の移り変わりから初めて、自分が日本に来てもう1年近く経ったということを実感しました。急に喪失感を感じて、冷静に思い出を整理することができなくなりました。

この町を離れて、私はどうなるのでしょう。無論中国で高校生活を続け、大学に進み、将来立派な人間になるかもしれません。でもこの町での思い出は、どうなっても忘れられないのでしょう。そして、この1年間で経験したこと、仲間たちが教えてくれたことも、自分の力になって、私のこれからの人生を支えていくのでしょう。

「ありがとう」と、私は窓の外を見ているままで囁きました。「どうしたの」とそばに立っている友人が問いかけました。

「いや、なんでもない」と私は何気なく答えました。夏場の空はとても高くて、青かったです。

貴重な体験

静岡学園高等学校／北京市月壇中学
陳　家文
CHEN Jiawen

一年間の留学生活はあっという間に過ぎてしまいました。この間に私はいろいろなことに出会いました。困ったことやよかったことがありました。でも、これらのことが私の一生にとってはとてもいい経験です。

私は中1から日本語を勉強し始めました。最初の頃は日本語の勉強に興味を持っていなかったので、あとになって日本語の成績が下がりました。2013年12月に、日本の高校生が中国に来たとき、私の家に住んでいました。一週間というとても短い間でしたけど、日本語がよくない私にとっては非常にいいチャンスでした。それに2014年1月の時、私は日本の幕張高校に修学旅行きて、日本の高校生の家にホームステイしました。

時間が移り変わって、今私は日中交流基金第九期の留学生として、静岡学園に留学しています。今回日本に来ると、新しい世界は目の前で広がっていました。日本の学校にいろいろな部活動があります。最初、静岡学園に来たとき私はサッカー部に入りました。でも途中で中止しまいました。そのあと、また剣道部に入りました。初めて剣道に触れて、目新しさと同時に、練習もつらいものと感じました。剣の理法の修練による人間形成を目的とする道または修行であります。皆さんは私を中国人ではなく、日本の高校生と正式の部員として接してくれます。毎日みんなと一緒に練習して、とても楽しかったです。

留学生活の間に私にとって一番感動したことは高校サッカーの応援です。中国では、高校サッカーの試合はほとんどありません。日本の高校サッカーの試合はテレビでも放送します。2014年11月9日、全国サッカー選手大会の静岡県の準々決勝。静岡学園VS藤枝明成。PK戦、大雨中に皆さん肩を組んで、希望を持って、一生懸命応援しました。最後の時に誰もあきらめないで、最後の力を尽くして戦います。それはサッカーの魅力です。

この一年間、私はずっとホームステイボランティアの家にすんでいて、一緒に暮らしています。生活習慣が違いますけど、こころをひらいて、お互いに理解するようになりました。山田さん、「ありがとうございました！」ここにみんなと一緒に生活して、家族の感覚があります。前のホストファミリーの名倉さんにも「ありがとう」と言いたいです。政治としての関係が良くないけど、だからこそ私たちの世代の関係が大事だと思います。成長した私は中国人と日本人の心が近くなるように頑張りたいです。

最後に、静岡学園の先生たち、友達、心連心の先生たち、山田さん、名倉さん、この一年間いろいろ迷惑をかけたけど、お世話になりました！ありがとうございました！この一年のことは私は一生忘れません。

来日の生活

光ヶ丘女子高等学校／石家荘外国語学校
盧　逸塵
LU Yichen

時間が過ぎるのが本当に早くて、あっという間に私の留学生活が一ヶ月しか残りませんでした。でも私はまだ初めて来た時のことをはっきり覚えています。

私は前、一度も日本に来たこともないから、飛行機の中でとてもドキドキしました。空港を出て初めて見た日本の空はとても綺麗でした。短い研修だけど、先生はいろいろなことを紹介してくれました。そのうちで、一緒に来た子達と友達になりました。でも一緒にいる時間が少なくて、みんながすぐ別れて、各地に行きました。

私が来たのが光が丘女子高等学校です。来た子たちの中で、私だけが女子校で、しかもキリスト教の学校です。来た前は「お嬢様の学校」だと言って、私は全然女子校に通った経験がなくて、友達ができなかったらどうすればいいのかとても不安でした。でも、そんなことがなく、みんながとても優しく声をかけてくれました。だんだん慣れてきて、女子校の良さもわかりました。みんなが女の子で堅苦しくすることもなく、なんでもしゃべります。そして光が丘の独特な行事もたくさんあって、合唱コンクール、クリスマスページェント、ミサなどが行われます。毎日もお祈りをして、歌を歌います。みんなの歌声が本当に美しくて感動します。

私は中国にいるときは、毎日勉強ばかりしていました。でも日本に来て、ほかのこともいっぱいできました。部活は和紙工芸部に入って、日本の伝統的な芸術を体験しました。しおり人形、貝人形とか、ちぎり絵を作りました。みんながとても上手でいろいろ教えてくれました。とても楽しい部活をやってる一方で、日本文化の美しさもわかりました。

留学生は毎週一回、日本文化の授業があります。茶道をやります。毎週かわいい浴衣を着て、お茶を作って飲んだり、和菓子を食べたりします。私も今、自分で浴衣が着れるようになりました。正座が最初痛くてつらかったけど、今も慣れました。日本の茶道が細かいところが多くて、時々面倒臭いと思うんだけど、茶道をやってから、ちょっと落ち着く人になったかもしれません。

女子校での家庭科はとても面白いです。前は自分でエプロンを作りました。正直に言ってあんまり縫い物したことがないから、エプロンを作って、女子力が高くなったなーと思いました。その他、グラタン、親子丼、おせち料理も作りました。とても美味しかったです。

私は理系クラスで、クラスのみんなはすごく勉強を頑張っています。いつも勉強の問題について話します。毎日掃除があって、みんなの力で学校をきれいにしています。掃除しながら、みんなとおしゃべりします。好きなドラマとかアイドルとか、最近見た映画とか、なんでもしゃべります。こうやって、みんなと仲だんだん良くなって行きます。

留学生の私たちが、岡崎市の図書館で外国語の読み聞かせを行いました。子供向きで、絵本を読んだり歌ったりして、日本の子供たちに外国語に興味を持ってもらえるように頑張りました。とても意味のある活動だと思います。

私はホームステイをしています。ホームステイの生活が想像したより難しかったです。中国にいる時は、一人っ子で、家族が私を中心にして動きました。勉強が優先で、他のことあまりやりませんでした。でもホームステイをして、全てのことは自分でやらないと行けません。前は料理を作ることが全然できなかったけど、今は味噌汁担当で毎日味噌汁を作っています。ホストファミリーが忙しいから、時々みんなの料理と洗濯もやります。その分、成長した一方で、お母さんの大変さも分かりました。お母さんがいつも私の面倒を見てくれるのに、ずっと当たり前なことだと思って、感謝することもなかったです。私が中国に帰ったら、お母さんのために料理を作ろうと思っています。

でも、一人っ子なので、時々寂しく思ったこともあります。今はお兄ちゃんもお姉ちゃんもいて、おじいちゃんとおばあちゃんと一緒に、七人家族で生活しています。それは体験したこともなく、とてもにぎやかな生活です。

これが私の留学生活です。とても楽しくて充実した毎日を過ごしています。最後少しだけ残っているんだけど、残念なことがないように過ごしたいです。

明日もきっといい日になる！頑張りましょう！

11ヶ月間の青春

桜丘高等学校／ハルビン市朝鮮族第一中学
劉　琳　LIU Lin

時が過ぎ、いつの間にか、11ヵ月も経つ時間がこんなにも早く過ぎました。私にとっては、実に意味のある11月だったのです。

この活動に参加して、日本に来ると決めたときは、すごく純粋な目的だったのです。ただ日本に興味を持って、親の保護の下のわがままな人になりたくなかったのです、つまり、自立したかったのです。最初の緊張、期待から今の安心、離別に対しての悲しみ、こんなにもこっちの生活になれるとは、思わなかったです。

最初の日々は、辛かったこともありました。授業の内容は以前勉強したことがあって、全部日本語だけの授業は聞き取れないことも多かったです。「え？？明日テストなの？」という疑問もよくあったんです。優しく教えてくれるクラスメートもいたんですが、ほかの人の迷惑になるかな？とずっと心配して、口を開くことができなかった。その状況はクラスでも、寮でもそうだったです。ホームステイでも以前からずっとあった癖があって、何回も間違ったことをやってしまいました。私はこのままでいいのかな、とずっと悩みました。その時の生活はコーヒーみたいに苦く感じました。

このままでは何も変わらない、私はこんな人じゃないのに、と冬休み中ずっと思ってたんです。その時から変わろうと思いました。新しい学期が始まったあと、授業にもっと集中してみたら、先生の話は本当に面白いと思いました。宿題もちゃんとやって、分からない場合はクラスメートに聞いてみて、みんなとの交流もどんどん増えていきました。そのおかげで本当に楽しいな～と感じました。ホームステイでも間違ったことをやったらすぐ直そうと努力しました。ホームステイの智子さんはいつもやさしくて、間違ったことがあったらすぐ教えてくれたんです。学校では朝からしっかり勉強して、休みの時間はおしゃべりして、お昼は5人でご飯を食べて、夜五時ぐらいは学校終わって寮に帰る。寮でも、時々みんなと話せるようになった。一人でここに来ている私だけど、今は一人ではないと感じました。いつもやさしくしてくれるみんなには、すごく感謝しています。

まだ記憶に残っているのは、運動会でみんなのために応援した時の緊張感、文化祭でプラスチックのパックを売れた時の喜び、新年の時、友達の家で食べたそばの温かさ、友達と誕生日を過ごした時の楽しさ、大会のため、努力して練習した時の苦しさ。。。そのすべての気持ちは心深く残っています。

こんな生活にどんどん慣れていて、普通の生活の中で、楽しみを感じました。中国の言葉には「苦尽甘来」という言葉があります。「困難の日を過ぎると、楽しい日が来る。」という意味です。私の留学生活はコーヒーみたいに感じます。その苦さの後はより甘みを感じています。11ヶ月の青春は私にとってすごく大切だった日々です。この11ヶ月に学んだことは記憶だけではなく、人生の大切なお宝になったのです。

感謝の心

三重高等学校／福州外国語学校
陳　鋆　CHEN Yun

去年の9月8日の朝、学校についた時のことは、まだはっきりと目の前に浮かびます。しかし、早いもので、一年間の留学生活はもうすぐ終わりを迎えます。今回の留学で、これまでにインターネットや教科書で見て理解した日本文化を、直に感じることができました。一年間の日本での生活から様々なことを学ぶことができ、たくさんの人によくしていただきました。

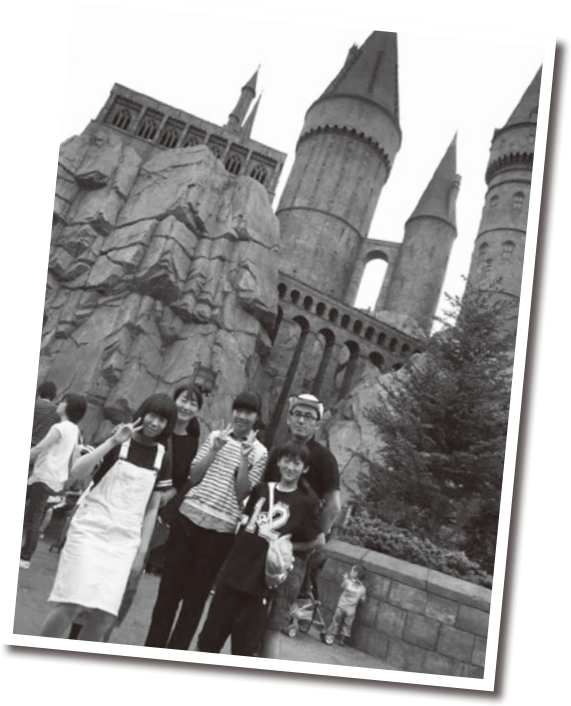
中国の私の家は、学校から近いところにあるので、今まで徒歩通学をしていました。しかし、日本に留学するにあたって、津市の安濃町の家にお世話になることになったので、電車通学をすることになりました。最初、一人で通学することができず、毎日クラスメイトに頼んで一緒に帰ってもらいました。時々、一人で帰る時に道に迷い、同じ三重高の制服を着ている人に道を尋ねることもありました。三重校生は、みんな優しくて、私を駅まで連れていってくれました。あの時、感謝の気持ちを伝えたかったけど、何と言えばいいのか分からず、伝えられなかったので、この場を借りて感謝の気持ちを伝えたいです。

次に、三重高校の先生方に感謝の気持ちを伝えたいです。担任の森井先生は、優しくて、相談しやすい先生です。書道部の佐久美先生には、いつもにこやかに書道を教えてくださいました。先生方のおかげで、いろいろなイベントに参加することができました。本当にありがとうございました。 それから、クラスの友達、クラブのみなさんや、たくさんの知り合いの方々にも感謝の気持ちを伝えたいです。普段、勉強面や生活面で友達にいろいろとお世話になりました。最初、知らない人だったみんなと、今では親友になり、学園祭から体育祭まで様々な行事に参加することができ、毎日友達と笑いながら自転車で通学したことが映画の一場面のようにくっきりと脳裏に焼き付いています。毎日が充実しすぎていて、不安だった気持ちや孤独感はどこかに吹き飛んでしまいました。

それから、ホストファミリーに感謝したいです。ホストファミリーにはママ、パパ、弟の真ちゃん、お爺さんとお婆さんがいます。ママはとても優しくて、かわいいです。毎朝、早く起きて、おいしい弁当を作って、駅まで車で送ってくれます。それに、ママがホームステイin津の実行委員で、家によく外国人を受けて、ホームステイをします。わたしもよく実行委員のスタッフとして、中国人の通訳を担当します。それのおかげで、いろいろな外国人と一緒に交流ができ、中国の文化を広げることができました。ママ、ありがとうございました。弟の真ちゃんは将来サッカー選手になりたいです。毎日、サッカーの練習や試合をして頑張っています。私は中国では一人っ子ですが、日本に来て、兄弟ができて、とてもうれしいです。それに、真ちゃんが頑張っている姿を見て、自分も頑張らなければいけないと思いました。真ちゃん、ありがとう。パパは毎日仕事が忙しくて、夜九時まで帰りません。週末の時、家族全員と一緒に庭でバーベキューをします。

最後に、「縁」に感謝したいです。「縁」のおかげで、私は三重県に来て、三重高校にお世話になって、みなさんと知り合って、三重県の素晴らしい大自然の絶景や、人文歴史を知ることができました。これらは、私にとって、全部が大切な経験だと思っています。

ありがとう、ありがとう。中国に帰っても、人や物に対する感謝の気持ちを忘れずに、毎日を暮らしたいと思います。



忘れない

立命館宇治中学校・高等学校／東北育才学校
李　彩維
LI Caiwei

6月10日水曜日、帰国までちょうど5週間となった今、この作文を書いています。時間は正に「矢の如し」で、19日には送別会もあり、1年間の留学生活に終わりを告げることになります。今はとても複雑な心境です。早く故郷へ帰りたいと思う反面、今の学校や友達、生活から離れる寂しさもあります。この1年間の生活を振り返ってみて、ようやく本当に充実した1年だったと言えるようになりました。

一番忘れられないのは何と言っても部活です。日本に来る前、「絶対運動部に入らない」と決めていました。その時の学校の日本人の先生からは「日本人の学生生活、日本の文化を理解するには、絶対運動部に入ったほうがいい」とか「ぜひ、日本の運動部に入って日本の上下関係を体験してみて」と言われました。でも、「絶対入らない」と強く言ったその時の返事を、今でもはっきり覚えています。「上下関係みたいなもん、好きになれるはずがない」とか「毎日そんなに厳しいメニューが続けば、絶対しんどくて、最後までやりきれないだろう」とか、思ったからです。しかし、結局、私はチアリーダー部に入って、今までやり続けてきました。1年間前には想像もできなかった自分の姿です。

チア部には去年の11月上旬ぐらいに入部しました。入る前には、何人かの先生から危険だと止められました。でも、あまり根拠のない自信で、思い切って入部をしました。それから、日曜日も休まずに日々の練習を積みました。そして、中国であまり運動をしない私がだんだんできるようになっていきました。それとともに、部のみんなとも仲良くなれました。

そのきっかけは3月の西日本大会です。私はBチームの一人として演技をしました。その時Bチームは本当に「やばいな」と思いました。メンバーも少ないし、みんなのレベルもAチームより下だったし、本当に演技ができるのかなと疑う気持ちもありました。しかし、みんなで励ましあい、最後に演技を完成させることができた時には、肩を組んだり、ハイタッチをしたりして喜び合いました。あれは今までに経験したことのない、涙が出るほどのうれしさでした。本気に何かを追い求めた後にしか感じられなかった満足を知ることができました。

こうした経験を通じて、部活についていろいろ考え直しました。上下関係もそのひとつです。「上下関係」、この言葉を初めて聞いたときには嫌な気分になりました。何かいじめにかかわるイメージがあったからです。しかし、本当に自分の目で見て、肌で感じた後、部の中での上下関係が存在する筋道が分かるようになりました。後輩は部活の準備、片付けなどをして、先輩を尊敬し、敬語を使います。先輩のほうは、後輩に尊敬されるだけのことをしなければいけません。例えば、後輩への指導に責任を持ち、部の運営など、気にかけたり、経験者として、いろいろなルールややり方についていいアドバイスを与えたりします。そうしたことから上下関係ということが成り立つのではないか、とチア部に入ったからこそ理解できるようになりました。

部活以外にもこの一年間にいろいろなことがあって、全てを書くことはできません。しかし、常に感謝の気持ちを抱いています。

こんな素晴らしいチャンスを与えてくださった国際交流基金。いつも心配してくれて、面倒をみてくださった先生方…。

初めて寮に入ってすごく不安を感じていたときに温かく迎えに来てくれた女の子は、今では一番の親友になりました。

初めて教室の外の廊下で「ナンパ」してくれた明るい男の子（ナンパは得意分野らしい）、今一緒に受験に向けて頑張っています。

いつも「うぜぇ！」と言っているのに、実はすごく熱心でやさしい元の担任の先生、ちょっとツンデレですごくかわいかったです。

常に先生と授業で議論をして、授業が終わっても諦めずにうるさいほど聞いている人は、すごく面白くて、常に笑顔を示してくれました。

歓迎会で「私は寮に住んでるよ」とうそをついた人、いつも「よっ、元気？」を言ってくれました。

出席番号は最後で、ずっと一緒に化学実験をしているやさしい男の子、この前席も一緒で、飽きずに分からないことを教えてくれました。

部活で一番好きなキャプテン、「おかん」というニックネームで、すっと穏やかで、やさしくしてくれました。

冬休みに泊まってきたホストファミリー、いろんなとこへ連れて行ってくれて、お年玉もくれました。

春休みにお世話になったホストファミリー、たくさんのとこを連れてきて、本を買ってくれて、一緒に初めて異国の誕生日を過ごしました。

この一年間、本当にやさしい人にいっぱい出会って、美しい風景をいっぱい目にして、初めてのことにいっぱい挑戦しました。

忘れないよ、クラスの人、クラブの人、出会ったすべての人。忘れないよ、宇治橋の夕焼け、三室戸のアジサイ、山際の校舎、JR宇治駅。常に漂っているどこから来た抹茶の香り、近くのスーパーの月末ごとの3倍ポイント…忘れないよ、初めての一人ぼっちの夜、初めての部活動、初めての脱臼、初めての異国での留学。このすべては忘れられない記憶となって、かけがえの無い大切な宝物となっています。

この一年間、笑顔があって、涙もあります。うれしさを感じて、寂しさも味わいます。いろいろ堅持をしたけれど、妥協もしました。私は本当に成長できたと思います。

宇治、さよなら、立宇治、さよなら、出会ったすべての人、さよなら。またいつか再会できると信じています。またこれからも友達でいてください。

愛気道

大阪府立大手前高等学校／東北育才学校
魏　傲雪
WEI Aoxue

初めて大手前高校にきた日は文化祭だった。そこで初めて「合気道」と言う単語を聞いた。演武をチラッと見て、正直、「わけ分からないけど、これすげぇーな」と思った。でもすぐには入部はしなかった。七時半からの朝練は大変だし、なにより、最初は帰国あとの留年のことを心配していた。同時に両国の勉強をしなければならないから、運動部入ると時間が取られてしまうと思って、部活はほとんど自習のような図書委員会だけにした。

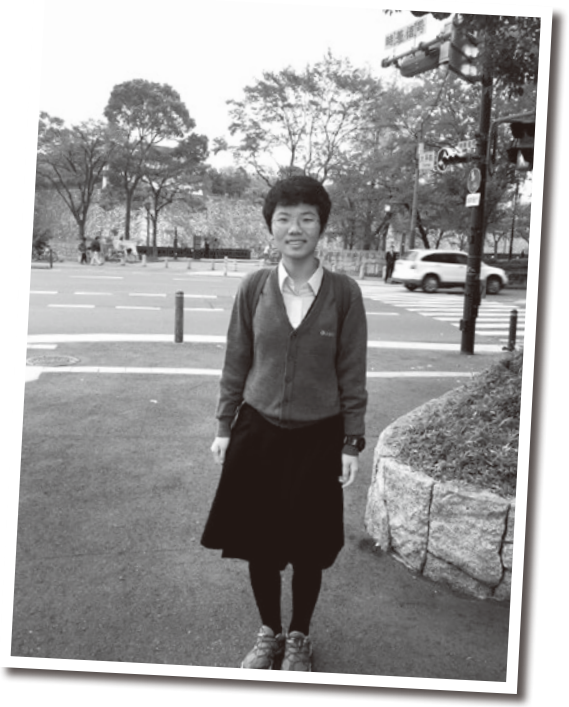
中国では、体育はこんなに苦手ではなかった。先生の言った通り適当に動けば笑える点数だけれども取れた。しかし、日本の体育時間長いし、疲れるし、着いていけないし、本当に大嫌いだった。マラソンの時は、授業の前の日の晩から憂鬱になっていた。

こんな気持ち、何とかできないかなと思いながら、合気道部に入ってみた。そこで、素敵な人たちと出会い、楽しい時間を過ごした。

不器用で何も分からなくて、先生にも先輩にも同級生にも乃至は後輩にも凄い迷惑かけた。けど、彼たちはそれを優しく受け止めてくれた、丁寧に教えてくれた。サボりたい気持ちになった時もあった。部活の前に「いやだなー」って思っても、終わるとき「えっ？はやっ！」って思うことが非常に多かった。合気道の技はとても面白く、体をうまく使うことで、力入れずに相手を倒せる。今もまだ100％運動好きとは言えないけど、前よりはだいぶ積極的になった、自分が進化したと思う。

マイペースな人だけど、合気道部でみんなと一緒に頑張る楽しさをいっぱい味わった。ホストファミリーのみんなも、励ましつづけてくれた。朝練のある日で早起きして、美味しい朝ごはんを作ってくれた。みんなに感謝を伝えたい。マラソンの時も、一緒に走る人がいてくれたからこそ、6キロ走れた。その時は「嫌や、無理無理無理」って何回も口に出したが、今思うと本当にいい経験になった。留年のことは今も心配してるけど、やはりやりたいことは気後れないでやるべきだと思う。

もし大手前に来る後輩がいて、その人がどのクラブに入るか迷ったら、「合気道部、来てね」って言いたい。「もし運動神経あったら、合気道部来てね、なかったら必ず来てね、武道で強くなれるから！体育好きなら、合気道部来てね、嫌いなら必ず来てね、好きになれるから！」勧誘するつもりではないけど、私、合気道部に入って本当に良かったと思う。合気道部に入ったことは一生の宝物になるだろう。



宝物

大阪府立夕陽丘高等学校／瀋陽市外国語学校
劉　子煊
LIU Zixuan

今、六月、真夏。帰国の日は少しずつ近づいてきます。十ヶ月は一瞬の如く過ぎました。この十ヶ月に起きていたことは、私の大切の思い出になりました。

五月に、初めて日本の体育祭に参加しました。前からずっとわくわくしていました。5月に入ったらいつも体育祭のこと考えていて、すごく情熱を込めました。クラスのみんなは一緒に出し物を考え、最後は格好いいダンスにしました。全員参加しましたので、みんなでダンスの練習をして、ダンス用の服を作って、朝練をして、いつの間にか体育祭の日がやってきました。みんなが全力を尽くした結果、私たちはダンスの準優勝を取れました。華麗ではない舞台の端っこで見えたのは、何よりも輝く私の留学生活でした。

四月、春を迎えました。桜が満開になった季節に、私は三年生になりました。新しいクラス分けをしました、名前も顔も知らない子がいっぱいで、誰に話しかけたらいいかわからなくって、少し不安でしたが、前に座った可愛い女の子は笑顔で私に「おはよう」と言いました。ワンダフォな生活が再開するでしょう。

三月、茶道部の部員たちと私と、カラオケに行きました、日本でカラオケに行くのは初めてのこともあって、すごくわくわくしていました、私は音痴で下手なうたしかできなかったけれど、みんなと笑い合いながらの時間がとっても楽しいでした。

二月、中国では新年ですが、私はひとりで日本で過ごしました。寂しくないと言ったら嘘になるが、ここで弱気を吐くわけにはいけません。

一月、日本の新年がやってきました。日本では旧暦を使わず、新暦の1月に新年を迎えます。ホームステイのお父さんが年越しそばを作ってくれました。

日本で過ごした一年、何も知らない私を支えてくれたのは、クラスのみんな、ホームステイ先のお父さんとお母さん、中国にいる親友たち、なんでも話を聴いてくれた先生たち、いつも心配してくれた、両親です。寂しくて泣きたい時に慰めてくれたり、親切にしてくれたこの人たちに、心より感謝しています。日本での一年間、中国で学べないことをたくさん学びました:二年生の時、家庭の授業で学んだマナーとか、三年生の倫理とか、音楽の授業の時もリコーダーを吹いたり、ギターを弾いたりしました。中国にいた時はあまり日本語を使わなかったため、日常のコミュニケーションはどう表現していいのかわからなかったけれど、今はほぼできるようになりました。私はこの一年で、三人の親友もできて、いっしょに学校に行ったり、おしゃべりしたり、そして一緒に東京の大学へ行くと、卒業したらうちに泊まりに来ることを約束しました。

今でも、私がこのプログラムに合格した時のことを思い出せます。私が合格してほんとによかったと思う、そうでなかったらこんな素敵な友達に出会うこともできなかった、こんな素晴らしい経験もなかったでしょう。きっとこの一年は私の最高の思い出になり、私のかけがえのない、一生の宝物になるでしょう。

留学生

兵庫県立宝塚高等学校／福州外国語学校
李　婧
LI Jing

「留学生」とはどんな人たちなのか、前からずっとその問題を考えてきましたが、だんだん成長して、その答えは少しずつ変っています。

日本に来る前、イメージの中の「留学生」は「かしこい、お金持ち、かっこいい、自立心強い人たち、また学生時代に外国に行くことができて、新しいぜんぜん違う環境で生活して、流暢に外国語を使って、外国人の友達と楽しくて遊ぶ人」でした。それから、国際交流基金日中交流センターの面接を受けて、合格して、“心連心”の留学生になりました。

初めての留学生活を始めたころは、なんとなくちょっと自慢な気持ちがあって「まわりの同じくらいの年齢の人は、まだ中国の高校で勉強しているけど、私も一人で日本に来ましたよ」しかし、いろんな人とつきあって、いろいろなことを見つけてから、だんだん自分にはいろいろ足りないことがあるという気持ちになりました。私は一人の「留学生」としていろいろな人、物事を見て、自分のまだ足りないことたくさん発見して、もっと頑張らなくて、行けないです。

3ヶ月後、最初の新鮮感がなくなった後、残ったのはいろいろなことをなれなくて、いろいろなことを悩んで困っていました。生活習慣についても人間関係についても、いろいろな違うところがあります。ときどき「私は一人だ、周りの人と違うから、みんなの中に入られない」という思いがありました。「きつい環境で一人頑張っていて、寂しくても、人と簡単には気持ちを共有できないこと」を経験しました。

半年後、異文化についていろいろな困難があって悩んでいました。

「留学生」は外国に来た留学生になるではなく、いろいろな異文化を勉強して、相手の仕来たりを守ることができる人が「留学生」と呼ばれると思いました。

今、留学生活もうそろそろ終わりました。一年間のことを思い出して、一年間何を勉強したか、何を習得したか、何をできたか、いろいろなことを考えています。

「留学生」はどんな人ですか。

留学生も普通の学生です。ときどき勉強したくなくて、授業の時もねぼうして、大量な宿題もやりたくなくて、ある時も夜遅くまで寝ないで携帯で遊んだりします。

でも、留学生は普通の学生より強いです。一人で外国に生活して、周りの人は何を言っている、何で笑っているがわからなくて、悩みがある時、国内の友達に言っても理解されません。みんなが見ている留学生はたぶんいつでも明るくて笑っていますけど、夜にはマクラを涙でぬらしたことを分かる人は自分しかいないと思います。

“心連心”の公費留学生の自分に対して、きつくても前向きに行かなくて行けません。どのぐらい泣きたくてもみんなの前では笑わなくて行けません。一年間いろいろなつらいことがあったし、いろいろなことを経験しました。だんだん成長して、心も強くなりました。いつも笑顔をみんなに見せるけれど、本当につらくても心から笑うことが一番大事なことです。

そのことが実践できるよう、私は“心連心”の留学生として、頑張りたいです。

ありがとうございます！そしてごめんなさい

奈良市立一条高等学校／深圳外国語学校
李　一凡
LI Yifan

日本語を勉強する前にもうずっと日本に行きたいなあと思った。今回一年間も留学できて夢みたいです。

初めての時はすごく緊張しました…外国人ばっかりなのはやはり緊張します…でもクラスメートたちは皆優しくて、緊張感は短時間でなくなりました。最初の日にもうお弁当の友達を作ったんです。毎日ごはんを食べたり喋ったりして楽しかったです。

クラスメートの中で、とても仲良しの子ができて、よく遊びに行ったりしていて、楽しい思い出を残してくれて、ありがたいです。「日本に行く前に、友達が出来なかったらどうしよう、喋ってくれなかったらどうしよう」と思ったが、そんなのぜんぜん気にしなくて良かったです。通った学校の皆は本当に優しい子でした。

ホストファミリーはよく私とご飯を食べに行ったり、お風呂屋へ行ったりします。時々映画館や遊園地も行ったりします。前には二回も兵庫県に行ってバーベキューしました。【日本のバーベキューは中国との味はぜんぜん違いますね…それ、当たり前かなあ…】

よくできてないこともたくさんありました。先生たちに注意されて、直していますが、まだまだ足らないと思います。でも先生たちが言ったことはずっと覚えています。中国に帰っても、忘れずに、全部直すように頑張りたいと思います。

そういえば私は意外と、「よく暗い」と思われています。

自分は自分が超明るいと思っていました（笑）

友達に聞きました、「私の初めての印象はどう？」

「いっちゃんは？うん…お嬢さまみたいかなあ。」と答えた。

まあ分かってる、それはやはり暗いということね…仲良くなったら、明るいと評価してくれるけどなあ…これは日本に来て初めて知りました。こんな印象変えるように、頑張ります！

この一年間、たくさんの人々に迷惑をかけました。本当にごめんなさい。大変な一年間が、勉強以外のこともたくさん勉強になりました。一番の収穫はたぶん…これからはどう頑張ったらいいかと思います。将来もまた日本で何かをしたいです。この一年間私は成長したと思います。本当にありがとうございます！

つかの間に

和歌山県立那賀高等学校／ハルビン市朝鮮族第一中学
高　雪梅　GAO Xuemei

友

「消灯の時間だぞ。お前ら！明日は早く起床するから早く寝てなーー！！」古谷先生の声とともに部屋の電気は消え、辺りは暗闇に包まれました。シーン。。。凄く静かな部屋から、布団をすれる音や、友たちのぐすぐす声が微小に聞こえてきます。数分の沈黙、皆、うつ伏せになって、布団に顔を埋めていました。「もう先生行ったんじゃねー?」寝ていたはずの池田さん一声のおかげで、皆一気に起き上がっていました。

畳の部屋。夜十時。修学旅行には有り触れた夜トーク。そう、私はずっとこの時間を楽しみにしていました。

数時間後

「ねーー。皆の夢は何なん？？？」誰かが話し続けました。

「女子ならば、看護師に越した物はない。出産した後復職できるからな。」

そこまで考えたのか。。心の底から驚きました。

「へぇ。。そうなんだ、私は先生に成りたいな～春夏冬休みあるしな~」

え。。そうかもね。。

「せっちゃんは？」

「うん。。。会計かな？」

。

。

。

夜トークのお陰で皆の友情関係もさらに親しくなり、もっと固くなった気がしました。私が落ち込む時、彼女たちはそれを気づいて、私を励んだり、慰めたりします。授業で困ったら、文句も言わず、いつも助けってくれたんです。修学旅行の時も私にアドバイスを与えられました。だから、その日、私は分かったんです。友だちと言うものは一蓮托生でないあろうとも、雪中に石炭を送る存在だと思いました。だから、距離がどんだけ遠かろうとも、きっと、わたしたちの心は常につながってるはずです。

家族

一日中最高の楽しみが何かというと躊躇うことなく「ホームステイにいる時間」といえます。なぜなら、家には色々な変わり者がよってきます、彼たちがいると、推測できない事がおこったりします。宛もタンポポようです、坂さんはユーモアで、冗談も受けれます、また、坂さんは思いやりがある方なので、家では気ままに生活しています、坂さんの事は本当にたいしたものですよ、普段はニコニコ微笑なのですけど、鋭い観察力を持ち、闇の中で真坂の「人間観察」って言う事を行っています、あるいは、何事に対する気持ちを転換するボタンを沢山もってるんです。

ホストファミリーの坂さんは本当に心の底から尊敬しています。なぜなら、坂さんはいつも人生の先輩として、「母」として、私に道理を与えるんです、いつも耳をそばだてて聞いてます！わたしにとってそれらは掛け替えのない大切な宝です。

時間は指先から流れてるのも感じれなく、捕まることさえできず、過ごしてしまいました。この一年は充実な一年だとおもいます。

ありがとうございました。

良い思い出作り

岡山県共生高等学校／西安外国語学校
邵　思成
SHAO Sicheng

窓から下の世界を見て、怖かったです。僕が初めて乗った飛行機です。また、初めて、家族と別れて、一人でそんな遠いところに行きました。どう思っても、不思議だった。

東京に着きました、僕と同じ状況の31人に会いました。以前は、あんまり知らなかったみんなでした。この活動で私たちは集まりました。そして、いい友達になりました。思わなかったのはまた会う時、とてもうれしかったです。

東京を離れた時、歓迎会がありました。その時、私を迎えに来た教頭先生はすごく厳しくて、怖い感じがしました。ちょっと帰りたい気持ちになりました。

僕が行く学校は岡山県にある共生高校という学校です。着いた日は夜なので、何も見えなかったです。その日はちょっと眠れなかったです。

僕のクラスは2年2組です。クラスには全員で15人しかいませんでした。その時、上田くんという男の子は私にすごく優しくしてくれました。だから、今でも仲良いですよ。この学校と中国の学校は全然違います。人数はちょっと少なくて、180人ぐらいしかいません。面白いのは部活がいっぱいあることです。

僕はインターアクトクラブに入りました、中国の学校は部活がなかったので、とても楽しみにしました。ま〜、今まで本当に疲れましたけど、いろいろなことを体験しました。楽しかったよ！

吹屋という町で陶芸を作っていました。それはとてもびっくりしました。よくテレビでそれを見ましたので、よく知っていました。今まで、作品がいっぱいあります。いつも私を連れて行く尾山先生、ありがとうございます。

すぐ、日本で初めての休みが来ました！冬休み！！その中に僕は16歳の誕生日を過ごしました。それは、僕は友達と一緒に誕生日を過ごしました。その日は新大阪に行きました。けっこう迷いましたが、あの二人が面白かったです。ありがとうね。

また、春節が来ました。その時、私は寮管の高橋さんと一緒に神社に行きました、いろいろなことを学びました。またたくさんおしゃべりしました。いつでも私に優しい高橋さん、本当にありがとうございます。

それは中間研修でした。やっぱり、日本の電車に怖い感じがしましたね。でも、みんなにまた会って、もう帰国した感じがします。その研修で、また、みんなと一緒に生活したり、ご飯を作ったり、みんなとたくさん学びました。ほんとうにリア充でしたよ！また期待しています。

二年生がすぐ終わりましたね、春休みでした。中国に春休みがないですので、すごく幸せだと思っていました。その最初は上田くんの家にホームステイに行きました。山を登ったし、焼肉を食ったし、家族のみんなもとても親切でした。もしチャンスあったら、また行きたいですね。

入学して、もう三年生の先輩になりました、新一年生がいっぱい来ました。学校生活がもっと面白くなりました。

残念を残さんで！この一年を振り返ったら、ちょっと不思議じゃない？

伝えたいこと

広島市立舟入高等学校／成都外国語学校
任　欣雨
REN Xinyu

一年間の留学はあっという間でした。

来たばかりの気持ちを思い出そうとしても思い出せなかった時にまた実感したのです、もうこんなにも時間が経ってしまったんだなと。とにかく、この一年間をときに短く感じ、ときに長く感じました。

来たときはワクワクしていたかもしれませんが、帰るときはどうでしょう。さすがに成長はしていたものの、国費留学生として日本に来た自分は果たしてやるべきことをちゃんとこなして来たのかって、やっぱり不安になってしまいます。

ドジで、人見知りな私は登校初日からのこの一年間はまさにハプニングの毎日でしたが、いつも周りのクラスメイトや友達がすごく親切に助けてくれたおかげで、なんとか無事にやってきました。いろいろ迷惑をかけてしまって、言葉ではうまく感謝の気持ちが表せない自分が情けないんです。せめて最後だけは絶対言おうと思っています。

日本に来てみて、私自身の考えがいろいろ変わりました。日本に来る前の私は本当に日本が大好きで、日本がなんでもいいと思っていましたが、実際に来てみて、そうじゃないことに気づき、冷静で客観的になれたのです。来日してから一番実感したのは、日本人が中国に対する誤解がかなり深いところです。これは言うまでもなく、日本のメディアが故意的に中国を悪く報道したせいです。もちろん、そういった報道にも事実があるのは否定しませんが、同じ出来事でもとらえ方によっては違うので、悪い一面しか取らないのはどうかと思います。さらに多くの日本人はマスコミの言うことを鵜呑みにしているので、私たちが一生懸命誤解を解き、両国の交流を進めようとしても、たった一つの報道で台無しになるかもしれません。それを思う度に、無力感を感じます。日本に来た中国人の留学生はみんな周りの日本人に「中国には○○がないでしょう」って聞かれたことがあるかもしれません。言葉に気を遣っている人は同じことを「中国にも○○がありますか」って質問します。でも、どっちにしても、意味は一緒です ―「中国には○○があるはずがない。」○○のなかに日本特有のものが入るんだったらまだいいですが、実際には普通のものの場合が多いのです。最初のときは、正直不愉快でしたが、聞かれる回数が増える次第に、慣れてしまいました。たぶんそれを聞いた人も悪意はないと思います。ただテレビや新聞の情報を信じただけでしょう。中国にいたときはよく日本人は中国人よりも中国に詳しいのに、自分たちは日本に関してはほとんど何も知らないというような文章をよくあります。しかし、ほとんどの日本人が詳しいのはどうやら二十年前の中国のようです。そういう状況は逆転しているのではないでしょうか。

楽しいこともちろんたくさんあります。でも「楽しいことだけでは足りない」です。楽しいことだけで成り立つ生活は幻のようなもので、偽物に過ぎません。本質の問題を探らずにいるのは解決の日が来ないんです。日中友好のために、もっと多くの人の協力が必要です。そして、私たち留学生も、もともと中国に関心がある日本人だけではなく、一人でも多くの日本人に認めるために頑張らなければなりません。

敢えて理屈っぽいことを多く書いてしまいましたが、それは私がこの一年間一番伝えたいことです。

ありがとう　日本

佐賀龍谷学園　龍谷高等学校／洛陽外国語学校
劉　浩翔
LIU Haoxiang

あっという間に、日本に来てからはもうほぼ一年間が経った。時間が恐ろしいほど早く過ぎ去って、自分が気づかないうちに、この長さ一年のマラソンはもうすぐゴールに着きそうだ。

顧みると、今だに一年前自分がスタートに立ったときの感じもはっきりと覚えている。初めて日本に来て、ホストファミリーと会って、いろいろ新鮮な体験がいっぱい押し寄せた。最初は何も分からなかったから、結構慌てふためいた。幸運でホストファミリーと学校の先生、クラスメイトからたくさん助けてもらう中でだんだん慣れて来た。

強いてこの一年間一番印象が残ったことを思い出させるなら、本当に何とも言えない。この一年間、楽しいことが多かった。最初のホストファミリーのお父さんに連れられて、海を初めて見に行ったことや、脊振山に登って、山頂で夕日の写真を撮ったり、その後の京都の観光にしても、他のいろいろな楽しいことも含めて山ほど積み重なった。いずれも私の記憶に深く刻まれた。この一年間の経験は、これからの私の人生の中でもうないことかもしれない。

現代文の授業で記憶に残る文章がひとつある。名前はもう忘れたが、一文はきちんと覚えている。「人の成長とは違いを知ることだ。違いを知って、自分で考えて、見比べて、それで、自分の経験などが人を成長させるんだ。」

確かに、私たちも、この一年で大変成長しただろう。新しい国で生活して、いろいろ慣れないといけない。日本語さえよくわからないのに、日本語で授業を受けないといけない。全然違う国、全然違う文化、全然違う言葉、我々たちは多く違いを知って来た。途中で戸惑う時期もあったし、困難に遭って、泣きたい時期もあったかもしれない。祝祭日のたびに中国の家族を懐かしく思う時期もあっただろう。けれど、私たちは耐えて来て、粘り強く努力してきて、本当に皆さんが頑張ったと言いたい。

この一年、私も頑張った。勉強や、部活動、日本語など。日本語がだんだん馴染んで来ると、日本について、もっと深く理解することができた。何で日本語の中で、曖昧の表現がこんなに多いんだって、やっと分かった。それは日本人はいつも思いやりがあって、向こうの気持ちを考えているんだと、私はこう考えている。たまに友達から聞いた話だけど、日本人は食事の前に必ず「いただきます」と言うことは、多分みんなも分かる。でも、本当はどういう意味でしょうか、どこから頂くでしょうか、多分みんなが考えないと思う。実際、「いただきます」というのは、自分の食べ物になった動物と植物などからいただくのだ。多くの植物、動物が私たちの命を支えるために、私たちの食物になった。これらの食べ物がないと、私たちは生きていけない。だから、私たちのために犠牲したいろいろな生き物に感謝を表すために、食事の前に必ず「いただきます」と言う。これは日本人が自然への尊敬だ。確かに、一つの言語はその言語の話し手の総体的な特性を表している。私は日本に来て、もっと日本人はどういう民族と認識した。

今はもうぼんやりとゴールが見える。本当に足を止めたいが、残念ながら、今足を運んでいるのは、もう私ではなく、時間なんだ。最初から、いつか終止符を打つとずっと分かっているけど、意外に速かった。この一年の経験は決まって私の一生の宝物になる。私はこの一年大変勉強になりました。ありがとう、支えてくれたみんな。ありがとう、日本。

永遠の故郷―大分

岩田高等学校／深圳外国語学校
王　俊朝
WANG Junzhao

気温上昇とともに、二度目の大分の夏がやってきました。岩田の敷地内には再び緑が溢れています。寮の前の樟も生き生きとしています。あっという間に、私の日本での留学生活は帰国の準備をしなければならない段階になりました。この十か月の留学生活を振り返ってみると、大分のこの土地が好きになってきた過程だと思います。現在、大分の人、大分の自然環境、大分のすべてを深く愛しています。

まだはっきり覚えていますが、去年の7月18日に心待ちにしていた国際交流基金からの通知がようやく来ました。生活地は絶対東京、大阪、京都のような都会だと祈りながら、封筒を開けました。目に入ったのは「生活地は大分県大分市岩田町岩田学園樟英寮」という一行の文字でした。日本に大分というところあるのかと思いながら、グーグル地図で学校周辺の写真を検索しました。私をかなり失望させたのは学校周辺に大きなショッピングモールもないし、高層ビルもないし、たくさんの木のほかに何もない風景です。都会生まれの私は本当にこの田舎町で十一か月の留学生活を送れるか心配なままで日本に来ました。大分空港に着いた瞬間に、その不安がさらに深まりました。吉本教頭先生の話を使って言うと、大分空港は空港内で絶対迷わないほど小さかったです。心配していた通りに、岩田へ来て最初の一か月はこういう生活環境に馴染めず、すごく困っていました。しかし、穏やかな気持ちで大分の美しさを探してみたら、都会と全然違う素晴らしい自然環境の良さを発見できました。

深刻に悩まずにただ景色を楽しみながら、のんびりと散歩することができると思わなかったです。休みの日に一人で澄み切った大分川の河畔を散歩し、肌で自然を感じることが私の楽しみとなりました。海の方を向いて歩いて行って、温暖な海風が頬を撫でてくれた感じが都会生まれの私にとっては非常にありがたい経験でした。そして、一番驚いたことは途中で偶然に通る知らない人がにこにこしながら、親切に「こんにちは」と挨拶してくれたのです。人生初めて完全に知らない人に挨拶され、人と人の信頼を感じました。深圳では生活ペースが速くて、人々がなかなか他人の気持ちを配慮できないし、東京から来たクラスメートに聞いてみたら、東京の人は冷たいらしいし、大分へ来られて本当によかったと思います。

永遠の母校―岩田

この十か月では90パーセントの美しい思い出は岩田で作りました。岩田のおかげで、日本での留学生活は充実したものになりました。ここで諸外国からの訪問団への歓迎会を行い、国際交流たくさんできたり、バスケ部に入り、チーム全員で団結して、最後まで諦めない精神を学んだり、日本の高校の行事をたっぷり体験したりして、数え切れないほど多くのことを経験しました。心から岩田に感謝しています。ちょっと悲しいですが、今の時期になって、やはり一番名残惜しいのは岩田の友達と先生方との別れです。

先週の日曜日に、私は国際交流基金からの指示に従って、事前に郵送する荷物を整理し始めました。突然2枚の色紙が目に入りました。それはクラスメートからの歓迎の言葉が書いてあり、岩田へ来たばかりの時、クラスメートに渡されたのです。懐かしいと思って、ワクワクしながら、見返そうとしました。みんなの言葉を一文字一文字読んで、心に溜まっていた感情が一瞬に爆発し、泣き出さずにいられませんでした。その中に二つの感情が含まれていました。それは来た最初の孤独と現在の幸福です。みんなとの絆がどんどん強くなってきたので、私は孤独から解放されました。大分弁でしゃべったり、笑い話をしたり、変な言葉を調べたりして、みんなのおかげで楽しい学校生活を送れました。

岩田の先生方、この一年間大変お世話になりました。面白く、内容が豊かな授業をしてくださりありがとうございました。最初のころ、英語担当じゃない先生でもわざわざ英語で説明してくださりありがとうございました。私が困難に逢ったら、先生方は灯台のように前進の道を指してくださりありがとうございました。先生方からの支えがないと、私が既に人生の道に迷ったはずです。先生方からもらった恩恵を忘れずに、これからの人生に繋げていこうと思います。

永遠の家―樟英寮

この一年間では3、4回寮が完全に閉館で一旦ホームステイに行った以外の時間は全部樟英寮で過ごしましたので、私にとって寮は非常に重要な家となっています。樟英寮は外から見れば、ちょっと刑務所みたいな感じですが、中には青春と幸福が溢れています。初めての寮生活で、迷っていたこともたくさんありましたが、そのたびに、同級生の寮生たちは寮のルールを教えてくれ、私のことを受け入れてくれました。先輩は少女時代のダンスを踊って、励ましてくれたり後輩たちもなるべく中国語で「你好（こんにちは）」、「早上好（おはようございます）」、「 晚上好（こんばんは）」と挨拶してくれたり、心の不安がなくなってきたのです。寮母さんもときどきこっそりお菓子をくれるし、トッピングを選ぶとき、食堂のおじさんもいつも大きい方を入れてくれるし、いつでも家庭の温かさを感じられています。ところが、私のわがままで、何回か寮母さんや寮監の先生に迷惑をかけて、申し訳ありませんでした。これからは同じミスを犯さないようにしようと思います。今回の帰省はちょっと長いですが、またいつか帰寮しますよ。寮は私たち寮生の永遠の家やけん。

人間が成長とともに、変わっていくのが普遍の真理ですが、私はどこまで成長しても、この一年間育てくれた土地―大分、愛してくれた人々を決して忘れません。

成長

神村学園高等部／長沙外国語学校
賀　梓忻
HE Zixin

日本に来てから、あっという間にもう一年が過ぎて行きました。この一年間の間に私はホストファミリーと暮らしたり、部活に参加したりなど、たくさんの新しいことを経験しました。一年前の自分を思い出してみたら、私はここで一杯学んで、成長したなと思いました。

去年の今頃、私は合格通知書を受け取って喜んでいただろうか、私はその時に自分が抱いた複雑な感情を今でも覚えています。嬉しいながらも、これからの一年、私はどんなクラスメートに会うか、どんなホストファミリーに会うか、日本語をうまく使って人としゃべれるか、恥ずかしがり屋の自分は友達ができるだろうかととても不安でした。

しかし、多くの不安は日本に来てから一つずつなくなりました。ホストファミリーや友達は私が思っていたよりとても親切でした。皆は興味津々で私にたくさんの中国のことや、中国語を聞きに来たり、私にいろいろな日本の文化を教えてくれたりと、心から親しみを感じました。私を励ましてくれた皆のおかげで、私は頑張って日本語を覚えて、日本の生活に慣れることができました。

日本文化を体験すると同時に、私はいろいろ新しいことに挑戦してみました。例えば学校の自由研究や部活動に参加すること、たまの休日に中国と違う学校生活を体験して、チームワークを深めました。それに、私はホストシスターの小学校や中学校をたずね、学校の新入生体験にも参加しました、そこで、多くの学生たちに中国を紹介しました。去年12月には初めて鹿児島県外国人スピーチコンテストにも参加して多くの人たちの前でスピーチをしました。

このような経験はわたしの大切な思い出になりました、でも毎日楽しい生活の中にもいろいろな悩みがありました。ホストファミリーのこと、学校のこと、自分のこと。恥ずかしがり屋の自分はそんな悩みをうまく解決出来ないので、ホストファミリーのことで困って、部活動も調子悪くなり、あきらめようと一度考えたことがありました。その時の私を助けてくれたのは仲良い友達、交流センターの先生たちでした。私にたくさんアドバイスをくれて励ましてくれた皆さんのおかげで、私はもう一度、勇気を出して困難に立ち向えました。

そして今また一年前の自分を思い出してみたら、月日がたつのは早いと感じるほかに自分の成長も感じています。私は幸運なことに日本にくることができました。困った時もあったけど楽しい時間を過ごしました、そして幸運なことにこんな多くの優しい人々に出会えました。私はただ、自分の目でみた日本を海の向こうにいる家族や友達など、もっと多くの中国人に伝いたいです。

選択

神村学園高等部／太原市外国語学校
韓　博陽
HAN Boyang

アメリカ人はイギリスの植民支配に反抗することを選んで、合衆国を作った。

ニュートン氏はリンゴが落ちる原因を研究することを選んで、万有引力を発見した。

項羽は鴻門の会で劉邦を殺さないことを選んで、最後に劉邦が演奏した楚の歌の中で自ら首をはねて死んだ。

私は日本に着いたばかりの頃気づいたことは、東京の高架道路がほとんど鋼鉄で作られていたことだ。「本当に丈夫かな。コストは高くないか。」と当時私は思った。また、私を受け入れてくれた学校の校舎の非常階段も全て鋼鉄製だった。私は一度この理由を友達に尋ねたら、友達は「鋼鉄はコンクリートより壊れやすくないだろう」と答えた。中間研修中に人と防災未来センターを見学する機会があった。その中で見た阪神淡路大震災によって砕けた高架のコンクリート柱の写真も友達の話を実証した。防災センターの先生が紹介してくれた「コンクリートなどの固い材料ではなくて、鋼鉄のような少し柔らかい材料で作った建物は大地震で壊れにくい」と聞いて、日本人はどんなにコストがかかっても安全第一に考える正しい選択したのだと私は思った。

しかし、他人が選んだ道は私たちにとっては簡単に理解できない場合もある。

私は普段寮生活をしているが、春休み中にAさんのお宅にホームステイをする機会があった。Aさん夫婦は三年前に大阪からIターンして鹿児島の田舎で家を借りて有機農業を開始した。それに伴って、Aさんの小学生の娘も大阪市内の小学校から近くの12人しかいない学校に転校した。「どうして自分の娘により良い教育を与えないの」という疑問が私の心で生まれた。ある日Aさんと教育について話したとき、私はずっと心にあったこの疑問をAさんに聞いた。Aさんの思っているのは「子供たちに知識だけでなく、彼らが自然の周りに自然がある環境を与えて、生活の技能をあげること。また、彼らが安全安心な野菜を食べられるようにするのは一番大事なこと」と分かった。確かに一番良い選択とは、必ずしも他人が一番良いと考えるものに限らない。人々がそれぞれの価値観をもっているので「正しい」か「正しくない」で判断できない選択が多いのも怪しくないだろう。それぞれ違う人生の中でそれぞれ自分に適合する選択肢を選ぶことが本当の「正しい」だろう。

正しい選択をした人もいれば、間違ったほうを選んだ人もいる。

私はこの一年間レストランで食べ残している人をあまり見かけたことがなかったが、寮の食堂のゴミ箱ではごはんはもちろん、一口だけ食べた魚や全く食べていない鶏のモモ肉などもいつも目にしている。朝食の三十人分の味噌汁は二、三人にしか食べられないままで後輩たちにシンクに流されたことも何回もあった。これらの捨てられた食糧は、世界中の多くの依然として飢餓にあえいでいる方々が期待しているものだろう。逆に中国の「光盤行動」（食べ尽くし運動、光盤＝皿をきれいにする）を見ると、始まってから一年半で食べ物を無駄にする人は確かに減っているが、まだ食べ残しを持ち帰りしない人も時々いるようだ。今私たちが普通に食べられる一日三食は世界の10パーセント以上の人口にとっては当たり前ではないことだと考えたら、私たちはどのような選択をすればよいだろうか。

選択。国も社会も個人も避けられない大事なことであり、自分に正しい選択をしたら成功になる、他人にもその選択を正しいと認めてもらえたら、その選択はこれから先も引き続かれていくだろう。

夢、空想ではない

鹿児島県立武岡台高等学校／済南外国語学校
張　楚珺　ZHANG Chujun

ステージの幕が閉まり、私は潮のようにとどろく歓声に陶酔していました。私にとっての最後の学校行事の文化祭での最後のダンスでした。照明ライトの光が眩しくて、私は夢の中にいるかのように感じました。華やかなステージから降りて、騒がしい体育館を出ると、雨が降っていて、冷たい風に襲われました。

「ああ、夢が終わっちゃったなあ。」と私は思いました。文化祭の夢も、ダンス部の夢も、留学生活の夢も水の泡になってしまう、消えてしまう、滅んでしまうと思いました。

去年の九月、今日みたいな雨の中で、私は初めて登校し、初めての学校行事の体育祭を迎えました。そのとき、今からの一年間に不安を抱きつつも、日中友好の夢を強く持っていました。自分が中国人であるがゆえに、嫌われるのではと心配していましたが、自分から手を延ばせば、人と人の距離も、国と国の距離もきっと越えられると強く信じていました。自分から歩みだせば、日中友好の夢は決して空想ではないと信じていました。

それは十ヶ月間の夢の始まりでした。

雨の中の体育祭で皆と泥まみれになったり、修学旅行で一緒にディズニーの花火を見たりしました。ホストファミリーと毎日楽しいことを歓談したり、悩みについて相談したりしていました。私は特別な存在ではなく、クラスメイトの普通な友達、ホストファミリーの普通な娘として生活していました。

夢、空想ではありませんでした。

しかし、同じ生活が毎日続き、ありふれた日常になりました。私もだんだん「もう飽きた、帰りたい」という気持ちになりました。最初から自分に強く自信を持っていた私はこんなことがあると思いませんでした。「なんでこうなったのよ」と、悔しく恥ずかしく思いましたが、帰りたい気持ちは変わりませんでした。そのとき、日本の家族全員と遅くまで話したことが忘れられません。一番辛い峠で一人ではありませんでした。絆は一緒に困難を乗り越えたことで深まりました。

半年前、夢は空想ではないと確信できましたが、帰国の別れの悲しみや孤独を恐れていました。半年後の今、私はもう別れを怖がっていません。距離が離れていても、絆は薄くならない、大好きな人たちは消えないと確信できたからです。別れは終点ではなく、新しい起点です。この先もきっと新しい道が開いてくるのでしょう。

私はずっと、一年間の夢から目が覚めたかのように感じていました。しかし今、私は世界のどこにいても、日本での腹心の友が、日本での家族が、いつまでも両手を広げながら待っていると強く信じています。夢、決して空想ではありません！

もっと素敵な自分へ

沖縄県立向陽高等学校／済南外国語学校
鄭　桐　ZHENG Tong

心優しい人情

「ニーホォー」

日本に来て初めて挨拶をした後私は職員室を出ると、一瞬母国にいるように感じさせる中国語での「こんにちは」を聞きました。目の前には陽気な笑顔をしている二人がいました。

これが私と杉田桃子と徳永江梨との最初の出会いでした。

初めて出会ったその日から自然となじむことができ、私たち三人は手に手をつなぎ、おしゃべりをしながら教室に行きました。

彼女たちの心温まる優しさで私の留学に対するこれまでの不安や心配が一瞬にして消えました。

9月、運動場で青春の汗を流して、生き生きと輝いているみんなを太陽が強く照らしていました。日本に来て最初の行事は運動会でした。

たくさんの友達ができ、私はみんなと応援するのに一生懸命でした。そして、友達の輪はいつの間にか学年をこえ、先輩たちから「学校はどう?」「寮の生活もう慣れた?」と私のことを気に掛けられるようになりました。

私はだんだんみんなの雰囲気に溶け込んでいくうちに沖縄は人情に溢れる心優しい人たちなのだと気づき、沖縄に留学してよかったと思うようになりました。

孤独感に耐える

高校生活最大の行事、みんなが楽しみに待ち望んでいた海外研修がやってきました。

みんなは「記念パーティの時何をするか」や「あっちのどこに行きたい」などの話題で持ちきりでした。教室の壁にも「海外研修あと○日」と書いている紙が貼ってあり、日がたつごとに「早く行きたいなぁー」とみんな口を揃えていました。

しかし、外国人で海外に行けない私は全く楽しみにしていませんでした。さらには、みんなの海外研修が羨ましいあまりちょっと嫌になりました。友達ができたばかりの新しい環境に慣れてきたのに、一週間ずっと一人で我慢して自習をしてずっと一人でご飯を食べなければなりません。これまでにない大変な寂しさを感じました。

しかし一人が寂しかった分、みんなが帰ってきた時は言葉にならないほど嬉しさが込み上げてきました。友達からたくさんのお土産をもらい、初めて海外で過ごして楽しかったことや嫌なこと、驚いたことなどを聞きました。今考えてみると、あの一週間は無駄ではなく、逆にあの時間があったことでみんなの事がとても大切でかけがえのない存在だということに気づかされました。

努力は人を裏切らない

学校でクリスマスのパーティがあり、バンドにもダンスにも上演するはずでした。しかし放課後は中国語スピーチの準備があったためみんなの発音を直す手伝いをしなければなりませんでした。そのため一回しか練習することができず、それが理由で、何年間もヒップホップを練習し続けてきた部活生と比べ、中国の古典ダンスしかできない初心者の私は、自分らしさを発揮できず苦手意識を持っていました。上演の日が刻々と近づいていくにつれ、遅れをとっている私はみんなの足を引っ張ってしまうのではないかとダンス習得への焦りや不安でいっぱいになりました。そんな時、落ち込んでいた私を察して励ましてくれたのは、仲良し友達でした。「どうしたの。元気ないね。」「とっとなら、できるよ。」と声を掛けてくれました。友達のにこにこした優しい笑顔をみると、私も自然と元気になりました。

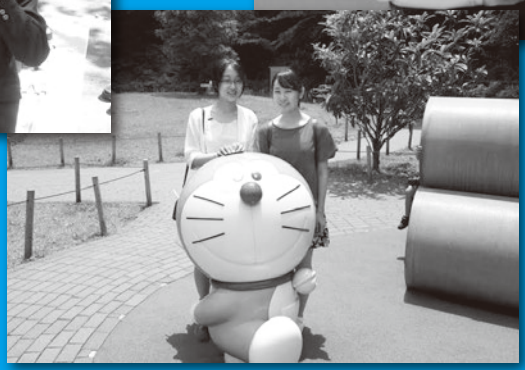
友達と相談した後、私は気持ちを切り替えました。絶対行ける、笑顔で堂々と踊るんだと自信を持って、一生懸命頑張ろうと決めました。早朝にダンスの練習を始め、部活時間外でも寮でダンスの練習をひたすら続けました。さらに、週末も友達のお家に行って、一緒に練習してもらいました。体の痛みに耐えられず涙を流し、つらいもういい、と思う日も少なくありませんでした。しかし、友達のすばらしいダンスを見てあの日友達からもらった言葉を考えわたしは自分に「あきらめるな」と言いました。そんなつらい日々と疲労と戦いながら私は自信がついてきて、ダンスもうまくなりました。上演が終わってから、みんなから「とっと、ダンスうまい。」や「めっちゃかわいかったよ」などのほめことばをもらった私はヒップホップに興味を持って、次の上演を楽しみにするようになりました。

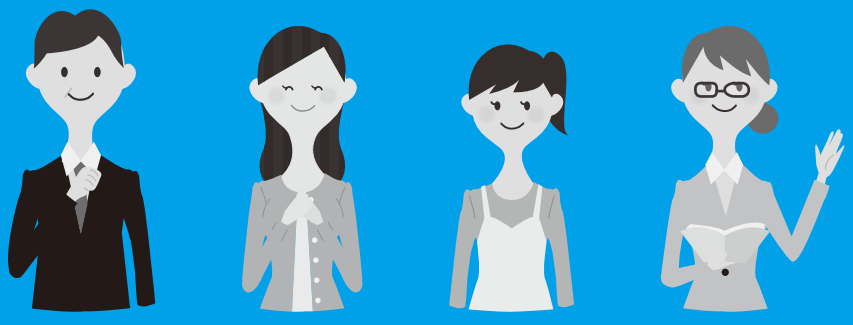
まさに「努力は人を裏切らない」のです。ダンスの練習でも。これからの人生でも。諦めない心と意志の強さを持ち、辛いことを経験しなければ立派な人間になんてなれません。最後まで全力で頑張ったので、結果にかかわらず自分には後悔もありません。

この11ヶ月間ほどの留学生活で、周りの人との関係を心を込めて守ること、他人の身になって他人のために考えること、孤独感に耐えること、泣いた後でも笑顔で自分の夢を抱くこと、自分以外には誰にも頼ることができないことを知りました。ちょっと未熟なところも残っているけど、本当に成長しました。「とっとのような留学生になりたいな」とか「とっとと友達になってから、中国人の優しさを分かった」と言ってくれ、めっちゃうれしかったです。運命の出会いに感謝しています。あなたたちが私のそばにいてくれて、私と一緒に成長してくれて、本当によかったです。私はこれまで出会った人との縁をこれからも大事にしたいです。異文化を越え友達になった私たちは未来でもっと素敵な自分達と出会えると思います。

第九期生を受入れて

お世話になった受入れ校の先生、お友達、
そしてホストファミリーのみなさんから、
九期生の受入れについての
感想やメッセージを寄せていただきました。





受入校

初めて心連心の生徒を受け入れて

兵庫県立宝塚高等学校 教諭　井上 真紀

「中国からの留学生がクラスにやってくる」と聞いた時から、勉強はついていけるだろうか、うまく人間関係は築けるだろうかと、頭の中をいろいろな不安がよぎる中、ついにその日はやってきました。初めて会った彼女は、とても清々しく、礼儀正しく、きれいな日本語で「はじめまして、私は李婧と申します」とにっこり挨拶してくれました。日本に来て間もない彼女は、緊張と不安でいっぱいだったはずなのに、誰にでも笑顔で丁寧に対応していたのが印象的でした。

1年1組41番として、いよいよ日本での高校生活がスタートしました。中学校3年間で日本語を学習してきただけあって、基本的な日常会話に困ることはなく、彼女の日本語能力は優れたものでした。ただ授業となると、専門的な用語や、標準語とは違うアクセントや表現の数々に苦労し、ただじっと座って聞くだけ、という我慢の日々が最初の数ヶ月は続きました。また他にも友達同士の会話にも苦労しました。輪の中にはいるけれど、喋るスピードが速く、あるいは若者特有の言い回しなどが全く理解できず会話についていけない、と何度も相談を受けました。私たち大人は、彼女が理解できるような表現を使って話をしますが、同世代の高校生はそこまでの配慮が足りず、いつも自分の日本語能力の無さを嘆く彼女をなぐさめていたのを思い出します。ただ彼女は一日でも早くみんなについていけるように、自分なりにまとめた語彙ノートを常に持ち、何度も反復練習をすることで、日本語能力をめきめきと上達させていきました。学年通信に掲載された彼女直筆の文章を見て、生徒や保護者からも「素晴らしい!」と声があがるほど、びっしりと書かれた立派な文章を見ても、彼女の日本語の上達は目を見張るものでした。

勉強に関しては、得意の理数系科目では常に学年トップクラスの成績を収め、また漢文の授業では彼女の本格的な発音に感動し、つい何度も読みをお願いするほどでした。早朝や放課後には、教科の先生に積極的に質問する姿もよく見られ、本校の生徒にとっていい刺激になったことと思います。彼女が特に苦手としていたのは英語です。英語の予習では、辞書を使ってまず英語を中国語に直し、それから日本語へと、本校の生徒の3倍も時間をかけて、毎日きちんと予習をしてきました。また放課後に中学校英語を一から一緒に勉強もしました。他の生徒より大きく遅れを取っていたことに、彼女自身も焦りを感じていました。ただ、彼女は決して諦めない強い心を持っていたので、少しずつではありましたが克服することができました。彼女の熱心に勉強する姿に、本校の生徒も彼女への尊敬の念が少しずつ生まれ、中国の高校生の勉強に対する高い意欲を身近で感じとることができたと思います。

部活動ではバドミントン部と茶華道部に所属し、熱心に活動しました。文化祭では浴衣を着て、お茶のお手前を披露したり、彼女らしいとてもかわいい生け花も展示しました。部の中で先輩、後輩という新しい関係も築くことができ、彼女が後輩から慕われている姿はとてもほほえましいものでした。また体育大会、文化祭、マラソン大会、球技大会など、中国にはない学校行事もクラスメイトと協力して楽しむことができました。中国には入学式がない、ということで、一つ下の後輩の入学式にも関係者として出席しました。帰国直前には野球部の夏の試合にも応援に行きました。初めて見た野球というものに感動し、また高校球児の気迫あふれるプレーを目の当たりにし、国境を越えて彼らに声援を送る彼女を見て、私も感動しました。

彼女が日本にいたほんの11ヶ月間。彼女を迎える前の私の不安はいい意味で、彼女は裏切ってくれました。彼女は何事も積極的に学ぼうという姿勢を最後まで貫きました。勉強のこと、友達関係のこと、日本での生活のこと、初めてのことが多すぎて、当然理解できず、慣れないこともたくさんありました。友達や先生に言えずに、一人で思い悩んだこともあったと思います。でも、留学生として日本に来て、自分は何をしにきたのか、なぜここにいるのかを常に考え、いろんなことに前向きに一生懸命取り組んだと思います。本当に彼女は努力の人です。一度、彼女が私に見せてくれたノートには、心連心の目的がきれいに書かれてありました。達筆であったこと以上感心したのは、心連心の留学生として来日し、中国と日本の架け橋として、自分は何ができるか、何をしていけばいいか、を常に思案し、学校生活を送っていたことです。なかなか前に進めない自分に苛立ちを感じ落ち込む彼女の姿も見ました。しかし、留学生としての李婧、中国人としての李婧に誇りを持ち、本校の生徒として立派に11ヶ月を過ごすことができました。本校の生徒はそんな彼女の姿から、非常に多くのことを学んだのではないかと思います。

彼女が帰国してはや1ヶ月以上経ち、日本では2学期が始まろうとしています。「先生〜!!!」と笑顔で向かってくる彼女の姿を、2学期から見られないのは残念です。何事にも一生懸命だった彼女の姿をいつもどこか目で追っていました。そんな彼女の姿はもう日本では見られませんが、今、中国で、本校で学んだことを生かしてきっと頑張ってくれていると確信しています。私自身、3月の心連心の訪中事業にも参加させていただき、また今回留学生をクラスに迎え入れ、国境を越えて人と人の強い繋がりを肌で感じることができました。歴史、文化、言語、生活…異なることは多数あるけれど、分かりあえる喜び、理解し合える大切さを学ぶことができました。今回、日本で貴重な経験をした彼女の将来は、きっとどこかで日本とつながっていることと思います。また再会できることを信じて、その時、さらに成長した李婧さんに会えることを、心から楽しみにしています。

受入校＋ホストファミリー

我が家の国際交流

龍谷高等学校教頭／佐賀県ホストファミリー　喜多 秀哉

劉浩翔君の来日は我が家にとって新しい家族が増えるとともに、自分たちの知らない異国の文化を理解するいいチャンスでもあった。実際に来日当初は私たちも中国での事情を質問攻めにしていたような気がする。幸いにも彼が通う学校が私の勤務先ということもあり、学校での様子から自宅での様子まで深く関わりをもつことができ、大変良かったと思っている。

1年足らずの期間の中で日本について、また日本人の考え方や文化について多くを知って欲しい、またせっかくのこの期間に多くの体験をして欲しいという思いで共に過ごした。ホストファミリーがお寺（浄土真宗本願寺派）ということもあり、彼自身はかなり多くの行事を経験したのではないだろうか。観月会や大晦日・お正月はもちろん、私の祖母の法事（十七回忌）や月命日にも同行させ、先祖に対しての思いも一部伝えることができたように思う。幸いにも長男が大学受験に合格したために、家族と一緒に引っ越しついでの本願寺参拝や京都観光も一緒にできた。彼自身は日本に大変興味を持っていており、自分たち留学生仲間で九州日帰り旅行もしていたが、さすがに京都では観光客が多い寺院についてもその雰囲気を感じ取っていたようである。

あっという間に1年が過ぎたが劉君自身は将来の夢に向かった学習姿勢が随所にみられ、授業内容による議論をクラスメートとするようになってからはその成果が発揮され、東京理科大学の留学生試験でも高得点をとり、検定においてもN1に合格をした。また書道部での作品も県の各種大会で受賞するなど、彼にとっても多くのことを学べた1年ではなかったかと思う。

お互いの国の文化や考え方の違いを知り、それを理解し合うことはこれからの国際化社会において必要不可欠の部分でもある。劉君を受け入れ、また私自身が中国を訪問（出張）したことで一層その違いを知ることができた。こういうチャンスをいただいたことに感謝しつつ、彼とのこれからの付き合いを一層深めることができればいいと思う。

友達

中国の妹 びーちゃん

長野県長野西高等学校　宮坂 愛里

私の家では初めてのホームステイ受け入れということで上手くやっていけるかと心配していましたが、びーちゃんこと陳美君さんは日本語がとても上手で人柄も良く、すぐにびーちゃんとの生活に慣れました。

びーちゃんとは毎日一緒に登校したり、料理したり、買い物したりと、たくさんの思い出を作ることが出来ました。特にお正月を一緒に過ごしたことが印象に残っています。おせちを作ったり、初詣に行ったりと、日本のお正月を体験してもらえて良かったです。また中国の春節のことについて話を聞いたりして、とても良い経験が出来ました。

他にもスカイツリーや金沢に行ったりしてとても楽しかったです。

また長野に遊びに来てください！！！

友達

留学生を通して感じた日中交流のあり方

沖縄県立向陽高等学校　杉田 桃子

今回、心連心プログラムで沖縄へ留学に来ていた鄭桐さん（とっと）と仲良くさせて頂いた向陽高校の杉田桃子です。私はとっととの交流を通して、若者の交流は本当に大事だなと感じました。今現在、政治的問題で日中の関係はあまり良くありません。日本には、中国や中国人に対して悪い印象を持っている人がたくさんいます。中国語コースのある向陽高校でも、中国語を勉強している私たちや、中国人ALTのいる中で、中国には絶対行きたくないなどを耳にする事が多々ありました。しかし、今回11ヶ月中国人のとっとが向陽に来たことで多くの人はきっと中国に対する考え方が変わったと思います。とっとはとてもフレンドリーな性格だったので、クラスにもすぐ馴染み、向陽高校の生徒ともたくさん会話を交わしていました。とっとが帰国する際には、将来また会いたい！中国に行きたくなった！中国の事もっと知りたい！とっととの交流を通じて、中国人の暖かさを感じた！中国人のフレンドリーで活発な性格好き！帰らないで、もっと本当の中国をたくさんの人に伝えてほしい！などと言ってくれる人がたくさんいました。彼女が日本、そして沖縄に留学に来てくれたことで一人でも多くの人が、メディア、報道などとはまったく違った中国に対する印象を持つことができたと思います。このような、交流の場は日中友好のためにも大切です。これからは、日本、中国全体で友好のために触れ、学び、考える場を増やしてほしいです。

そして、日本へ留学に来たことで大きく成長できたのはもちろんとっとですが、それと同じくらい私も成長することができました。もともと中国語を学び、日中交流に興味があった私は彼女からたくさんの事を学びました。とっとがクラスに入ってすぐ友達になり、秋にはとっとが私につきっきりで発音や表現のネイティブにしかわからないスピーチの方法を指導してくれ、沖縄県、全国の中国語スピーチコンテストで好成績を収めることができました。そして、冬休みの期間にホームステイの受け入れをした際には、共に生活していく中でたくさん中国の話を聞いたり、中国語を教えてくれたり、流行りの歌を教えてくれ、私はそれにハマり二人で一緒に中国の歌を歌ったり…私も中国に留学しているような感覚でした。

三月には心連心のふれあいの場訪問事業で中国へ行き、とっとの学校を訪れる機会があり、さらに中国を知りたくさんの経験をする事ができました。高校生活の中で他にも体育祭や文化祭、修学旅行などを一緒に楽しめたことは私の大切な思い出になりました。

とっとに出会えたこと本当に良かったです。もし彼女が向陽高校に来ていなかったら私自身成長も出来ていなかったし、周りの人もずっと中国に対して同じ印象を持ち続けていたと思います。そして、私は彼女と出会えたことで、将来日中友好に深く貢献できる人になりたいという夢ができました。日本に興味を持ってくれ、勇気を持って留学に来てくれたとっとにはとても感謝しています。大学生になったら今度は私が中国へ留学に行き、とっととまた再会できる日まで、中国語力も、人としても、もっと成長していきます。また一人一人との出会いを大切にし、これからも日中交流に関わっていきたいです。

最後に、国際交流基金　心連心のみなさん、こういった場を作っていただき本当にありがとうございました！！これからもたくさんの留学生を日本全国に羽ばたかせて下さい。日中友好万歳

ホスト
ファミリー

留学生と共に…

和歌山県ホストファミリー　坂 美希

この九月で、とうとう気がつけば五人目の長期留学生（高雪梅さん）を預かることとなりました。

最初のきっかけは私の三人の子供たちのお姉さん的存在として、軽い気持ちで引き受けましたが、今では自称、中国留学生担当と名乗り、長女と同年代の子を預かり私の子供たちと同じように育て、また育てられているような気持ちで毎日を過ごしています。

今までの五人の留学生はそれぞれ個性豊かな子供たちで性格も全く違い、好きな食べ物も違い、真面目な子からオタクの世界にデイープにつかってる子、最近では怖いものみたさ的な好奇心まで出てきて留学生を預ってる次第でして…友人からは“変わり者”呼ばわりされています。

一年近く一緒に過ごしていると色々なハプニングが起こり、いつもは笑ってすごせるのですが、たまに笑えない迷惑もあり、その時は私もマジで怒ります。

決して腹に溜めず、その時その時でハッキリ私の気持ちを言うようにしています。

でないと長期にわたり一緒に生活できないと思っているからです。もちろん相手の意見も聞くようにしています。私の思いと相手の思いは違うからです。ホームステイをしている皆さんも生活するにあたって相手とぶち当たった事があるでしょうね。お隣の国、中国といえども文化、食事、習慣の違いが大きくあり、当然、考え方が違うのは仕方がありません。それが個性だからじゃないでしょうか？

出来ればお隣り同士なので仲良くお付き合いはしていきたいと思っております。

子育てに間違い、正しいは無いですが私なりに自分の子供と留学生と過ごす生活を大切にして、いつか引き受けた留学生の故郷を訪ねたいのが今の私の夢です。

ホスト
ファミリー

あっぱれ留学生 林澤宇

千葉県ホストファミリー　大河原 暢彦

16歳の少女のたくましさに圧倒された1年でした。昨年9月、わが家へ来るなり林澤宇は「3ヶ月で日本語能力試験1級をとります」と宣言。以来、毎日部活を終えて帰宅後、夕食までの間日本語の猛勉強が続きました。若い頃、記者をしていた私が先生、彼女が生徒です。目標通り、12月初旬の“考試”で1級に合格すると、文章力を磨くため朝日新聞に投稿。さらにスピーチ作法を習得するため、国際交流基金の主催する外国人の弁論大会へ出場と、難関を次々にクリアして行ったのです。

この辺りから、日本語学習での私たちの子弟関係は逆転。帰宅後、あれやこれや学校での出来事を話してくれる林澤宇に、「レッスンゴリライ？」「アケオメ？」、日々JK言葉を指南してもらう私でした。

それにしても、知識欲も生活力も旺盛な“姑娘”でした。物怖じせず、経験したことのないチェロの演奏からテニス、カヌー、乗馬、山登りなどに挑戦。「何でも経験してみよう」の1年は、日本を知るうえできっと役立ったはずです。その1年を共に過ごした私たちの心も、林澤宇のおかげで外に開かれました。なにより、記憶力も知力も衰えつつある私が、中国語を勉強するようになったのです。

いろいろな生徒と話ができていたので、中国を身近に感じる様になった生徒がたくさんいると思います。何でも一生懸命やるので、いい刺激を与えていました。

高校生の多感な時期の交流は意義があると考えます。

クラスや同学年の生徒男女の区別なく、日常のことはどんなことでも話していました。授業の内容についても友達同士で質問し合い、教え合っていました。

クラスメートに数学、化学を教えるなど、良い影響を与えていた。日本語が十分でないながらも、現代文、社会等にも挑戦をし、教員からも評判が良かった。

中国に対してあまり良い感情を持っていない生徒がいることは事実です。しかし、実際に中国からの留学生と接することで、彼らの感情にも変化が生じると思います。

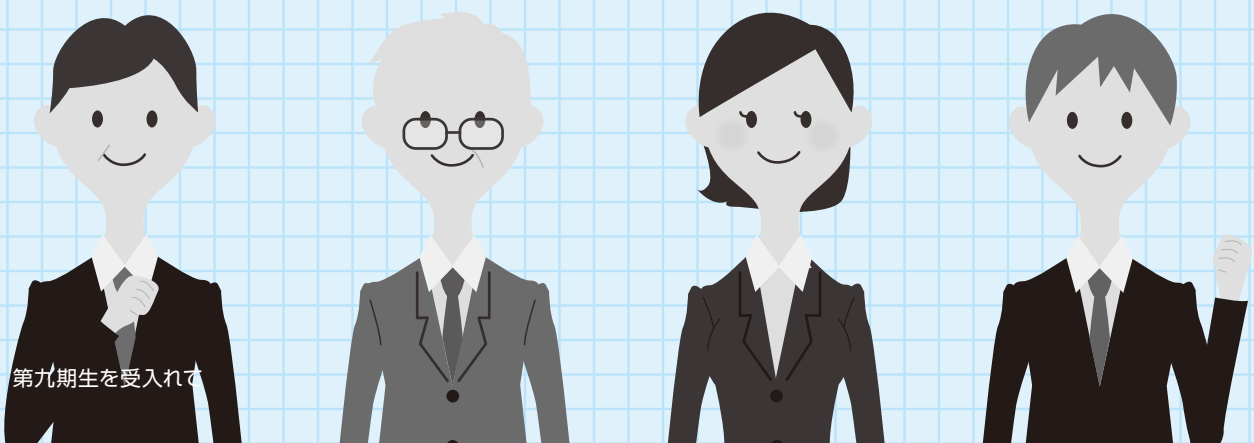
大変優秀な生徒でしたので、勉強面での刺激を大いに与えてくれました。また、話し好きで自国についての紹介なども積極的に行い、同年代同士での交流ができました。

毎年それぞれの個性をもった生徒が来るので、国籍より個々の人間性が一番で、万国通じて大切なものがあるのだと勉強しました。

中国という国をテレビや本、新聞などを通して知るのではなく、一人の高校生から中国という国を感じることができたことが良かった。

生徒同士での交流を通して、日本・中国のこと、学校生活、習慣の違いだけでなく、国際交流・異文化理解や体験は本校の生徒はとてもよい機会になった。

受入校の声



日本に興味がある生徒さんが日本の支援をもらって日本で教育を受けることができるのはとても素晴らしいと思いました。中国と日本の架け橋にぜひなってほしいです。

3家庭にステイし、それぞれの家庭の良し悪しを比べるでもなく、違いを受入れて生活していたようです。ホストファミリーとの関係が悪化することもありましたが、その度に日本と中国の違い（手伝い、トイレや風呂の使い方、人との付き合い方など）を認識できるようになっていきました。

日本人高校生が失いかけている、教師に対する敬いの心や勤勉でひたむきな姿勢を中国人留学生は備えており、私たちも大いに触発されるところがありました。彼のように、日本に親しみを持っている中国人はたくさんいるということを生徒に十分伝えることができたと思います。

中国の高校生に日本で学ぶ機会を提供することができるだけでなく、日本の高校生にとっても、国を越えた友情を育む絶好の機会になったと思います。友好な日中関係の促進につながる事業であると思います。

帰国直前に学年集会を開き、お別れ会を開催したところ、見事な日本語のスピーチと琵琶演奏を披露してくれた。本校生は、留学先で自国の文化を堂々と披露する姿を見て、その積極的な態度に感銘を受けた。

なぜ日本に来たのか、心連心の目的をしっかり理解して、自分のやれることを精一杯頑張っていた。中国と日本の架け橋になろうという意識を持って、日本での生活を送っていた。勉強や将来に対する意識が高かったので、日本の生徒にとってはそれらを学ぶ機会を与えられたと思う。

留学生に日本の良さを伝えることを通じて、生徒たちは自国のことについて再認識しましたし、また留学生から中国の良さも教わりました。留学生としての彼の勤勉さは同じように留学を志す周りの生徒たちにとって良い手本となりました。そして、クラスの中にかけがえのない絆が生まれました。

中国の生徒の勉強への取り組む姿勢がとても熱心で、目標も高く、自分にも厳しいと感じる一方、日本人の気質や習慣も前向きに受入れ、日本を愛してくれていると強く感じることができます。日中交流を教育で支える大切なプログラムだと思います。

国と国を考えるといろんな問題がありますが、個人対個人で付き合うと、理解し合えると私ども含め親戚や友人などが感じました。

中国に一人子供ができました。

中国の若者たちが日本を知り、私たちが中国人の考えを知ることの意義を改めて痛感。今後もこのプログラムを長く続けて欲しい。

隣の国なのに、あまりに違う文化、習慣に驚きました。彼女らの文化・習慣を理解しつつ、日本の文化を教えることができたと思います。

中国での教育や生活スタイルを聞き、日本での価値観や自分の子育てを振り返り、考え方が広まったと思います。

テレビには出ない中国を少し感じました。学生の様子、食べ物など、教えてもらうことができた。彼女のお母さまと手紙のやりとりもすることができた。

根本的な考え方の違いなどを私自身学ぶことができた。特に6月に出張で中国訪問した際にその辺が理解できた。

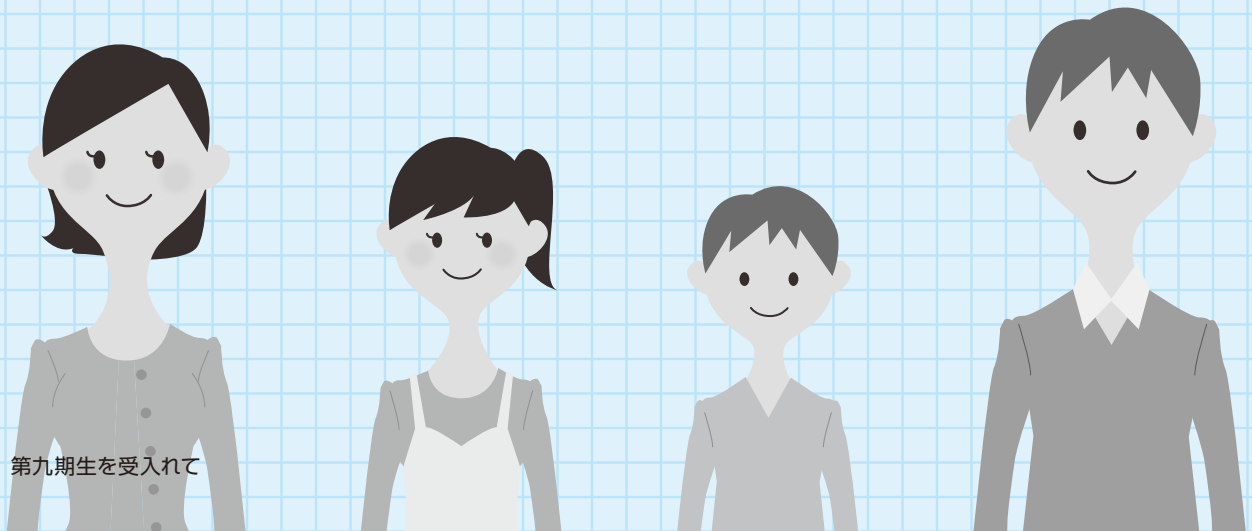
私たち老夫婦の心が外に開いたように思います。中国への関心も高まり、中国語を学び始めました。

日本にいながら異文化交流ができた。留学生が一年間で言語だけでなく、いろいろ成長したのを見て、子供にも留学させたいと思った。

中国の若い世代の方々に日本の実像を知ってもらい、将来の日中関係の良好な関係性を築く一助になるのではないかと思っています。

自分の息子が一人っ子なので、姉のような存在となってくれました。私にとっても娘のような存在で、いつも自然でよい交流ができました。

ホストファミリーの声



初めてのホームステイで緊張しましたが、受けた以上は頑張らなくちゃという思いで最後まで無事にできて本当に良かったです。生徒から沢山のものを得られました。16歳の少女一人で異国に留学に来て、見知らぬ日本の家庭に入って生活するということは大変な決心がいると思います。慣れない環境、学校生活、良く乗り越えて頑張ったなと感心しました。毎日通学一時間半も往復で通い、疲れてもいつも笑顔で「ただいま」といえるのがとっても素晴らしいです。私はいつも元気をもらいました。朝日新聞に投稿して掲載されました。私の誇りの子だと思っています。

老夫婦二人だけの生活に若い人が加わることで、家庭が明るくなりました。また、もう一人同じ高校に通う留学生と4人の生活に、楽しく活気がありました。国を越え互いにいたわり合い生活することを各自が学んだと思います。

中国の若い人たちが日本という国をどのように見ているのか、中国人がどのように見られていると感じているのかを互いに知ることができ、一方的な情報に惑わされることなく、互いに人と人としての信頼感を高めることの大切さを改めて学べたと思います。

中国人の受入れは初めてでしたので、良い異文化交流になりました。同じアジアでも随分考え方、生き方、感じ方、何を大切にしているか違っているのに驚きました。

初めての経験で、いろいろ得たものはあったと思います。考えをまとめて話すこと、世界を見ること、偏見をなくすことです。中国は私が知っていることよりも、日本に近く、でも遠い国だなと思います。もっともっと彼女（留学生）から「中国」という国を話して欲しかったし、討論したかったです。彼女の誤解と、私たちとの考えの誤解がとけたんじゃないかと思います。

母親として、子育てについていろいろ考えたり、行動についても本当に良かったと思う。それが、他文化かからという点でも、日本の子育てや教育について考えることができた。子どもたちは、高校生活を少し見ることができたことや、「留学」についていろいろ感じたりしていた。

子どもたちはお姉さんができて喜んでいた。中二の息子は勉強に対する姿勢を少しはまねていたように思う。（滞在期間のみ）小三の娘は、留学生の部屋で一緒におしゃべりしたり、遊んでいた。

楽しい経験をありがとうございました。ぜひ日本から沢山中国へ行く機会を増やして欲しい（今、大学は中国人留学生が沢山います）、日本の高校・大学生等に・・・。経済や産業など将来的にからむ機会が沢山あるので、中国人や中国社会に触れられるのはとても大切だと思う。

あとがき

2015年7月、第九期生31名全員が無事に帰国した。

現在は元の在籍校で元気に中国での高校生活を送っている。

毎年の繰り返しとはいえ、1年という時間が経過するのは早い。そして、その間の中国人高校生たちの心身の成長は驚くほどに早い。来日直後の何となく頼りないあどけなかった顔つきが、1年間の日本での充実した高校生活を体験し、周りの方々に支えられながらも、いろいろな困難に直面しそれらを正面から取り組み乗り越えてきた自信から、いまや日中の次世代を担うべき人材として頼もしくも逞しい若者に育ってくれている。彼らの成長を傍らで実感できるのは喜ばしい限りである。

今年もまた31通りの涙あり、笑いありの熱いドラマが日本全国津々浦々で展開された。この報告書にも感動的なエピソードが、彼らなりの感受性に飛んだ豊かな言葉でちりばめられている。本事業のスローガンである「心連心」の気持ちが、読んだ者のハートに大きく響き涙なくしては読めない。

願わくば、彼らがこれからも心身ともに健全に成長し、日中相互理解のための良き架け橋たらんことを祈る。

最後になりましたが、第九期生を多方面より支えてくださった受入高校の先生方、ホストファミリーの皆様、そしてすべての関係者の皆様の日頃からのご尽力、ご支援に心より深く感謝申し上げます。

国際交流基金 日中交流センター
事務局長　堀 俊雄

日中交流センター職員一同

心連心ウェブサイト

日 中 両 言 語 対 応

http://www.chinacenter.jp/

日中交流センターでは、日本と中国の将来を担う若者たちが心と心を結び合う"心連心"をテーマに、「高校生長期招へい事業」「中国ふれあいの場事業」「ネットワーク強化事業」を実施しています。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

発行　独立行政法人国際交流基金
日中交流センター

〒160-0004 東京都新宿区四谷4-4-1
TEL：03-5369-6074　FAX：03-5369-6043

2015年12月発行

Heart to Heart

国際交流基金
日中交流センター
JAPANFOUNDATION

協賛：日本航空株式会社
株式会社資生堂
カシオ計算機株式会社